

民事訴訟法草案

第二十六回

日本
法律
協會
編輯

シ

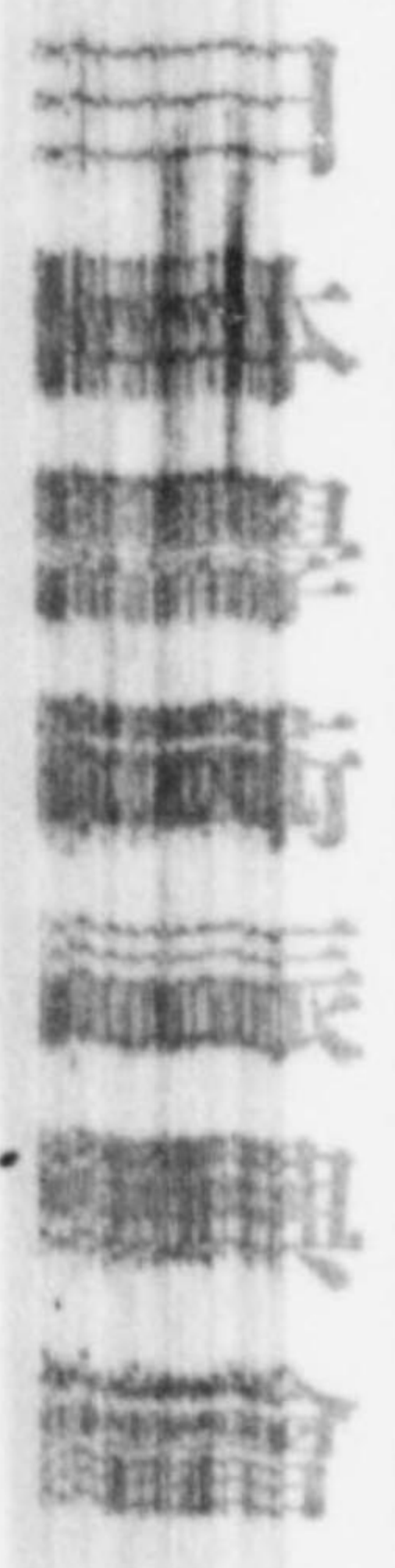
日本
法律
協會
編輯

第七百二十五條 其發セラレタル判決カ執行ス可キモノト爲ル時ハ其判決ニ基キ裁判所ハ直チニ支拂又ハ其他ノ分配手續ヲ命ス

第七百二十六條 分配ノ實施ノ際現在セサリシ債權者ニ對シテハ下ノ二項ノ規定ヲ留保シ之ニ分配ス可キ金額ヲ其危險及ヒ費用ニテ送致ス

債權者カ民法ニ從ヒ支拂金額ノ領收ニ對シ債務者ニ交付スル義務アル證書ヲ以テ債權ノ憑據ト爲ス時ハ其證書ヲ提出スルニ非サレハ支拂ヲ受クル事ヲ得ス裁判所ハ債權ヲ支拂ヒタルヤ否又如何ナル金額マテ之ヲ支拂ヒタルヤヲ其提出セラレタル各箇ノ證書ニ證記ス可シ又完済シタル債權額ニ關スル證書ハ其全文ヲ抹殺シ且其紙面ヲ剪斷シタル後債務者ニ之ヲ交付シ總テ其他ノ證書ハ之ヲ債權者ニ還付ス可シ

若シ債權者カ前記ノ證書ヲ提出セサル時ハ之ヲ追完シ又ハ其證書



ヲ無効ト宣言スルマテ債權額ニ相當スル金額ヲ債權者ノ危險及ヒ費用ニテ裁判上ノ貯蔵ニ付ス可シ

第七百二十七條 分配案ニ對シ異議ヲ申立テタル債權者ハ定マリタル期間内ニ裁判所ニ訴ヲ起シタル事ヲ證スル事ヲ怠リタル時ト雖モ分配案ニ從ヒ金額ヲ分配セラレタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ普通ノ例記ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所ニ其優先權ヲ主張スル事ヲ分配案實施ノ爲メニ妨ケラレス

第七百二十八條 強制執行ヲ以テ命シタル管理(第七百十三條)ニ際シ收入カ數名ノ關係債權者ニ辨償スルニ足ラサル時ハ管理者ヨリ裁判所ニ其現狀屆書ヲ差出シタル後此數ノ規定ニ從ヒ分配ヲ爲ス可シ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 強制競賣

第七百二十九條 不動産其物ニ對スル強制執行ハ強制競賣ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百三十條 強制競賣ニ際シ裁判所ニ任カセラレタル行爲ニ付テハ不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

若シ數箇ノ區裁判所ノ管轄區ノ疆界ニ付キ孰レノ區裁判所カ管轄ヲ有スルヤ不明ナル時又ハ不動産カ數箇ノ區裁判所管轄區ノ疆界ニ跨ル時ハ申立ニ因リ第二十六條ノ規定ニ從ヒ此裁判所ノ一ヲ以テ執行裁判所ト定ム

一債務者ノ數箇ノ不動産カ數箇ノ區裁判所管轄區内ニ在ル場合ニ於テ其強制競賣ヲ爲ス可キ時モ亦右ノ命ヲ發スル事ヲ得

第七百三十一條 強制競賣ヲ爲ス前ニ執達吏ヲシテ不動産ヲ其所在地ニ就キ差押ヘシムル事ヲ要ス

第七百三十二條 執達吏ハ債務者カ不動産ノ所有者トシテ地所帳ニ記入セラレタル時又ハ其不動産ニ付テノ所有權カ債權者ニ因リ信スルニ足ル可キ證明書ヲ以テ證セラレタル時ニ限り差押ヲ爲ス事ヲ得

第七百三十三條 債權者ハ未タ不動産ヲ占有セサル時ニ於テハ差押ニ因リ其不動産ニ付キ質權ヲ得取ス其効力ハ有體動産ノ差押ニ關シ第六百五十一條ニ定メタルモノト同一ナリ

第七百三十四條 差押ハ不動産ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ抵當權カ記入セラレタル事又ハ不動産カ質貸借ニ付セラレタル事ニ因リテ妨ケラレス

若シ質貸借ノ場合ニ於テ債權者カ借料ヲモ強制執行ノ目的物ト爲サント欲スル時ハ其債權者ハ借料ノ裁判上差押又ハ不動産ノ強制管理ヲ爲サシムル事ヲ得

第七百三十五條 執達吏ハ差押ヲ爲シタル時直チニ不動産所在地ノ地所帳役所ニ執行力アル正本ヲ提出シ其不動産ヲ債權者ノ債權ノ爲メ強制執行ヲ以テ差押ヘタル事ヲ記入簿ニ記入セント囑託ス可シ

右役所ハ遲滞ナク其囑託ニ應シ且署名捺印ヲ以テ認證シタル差押記入ノ原本ヲ執達吏ニ交付ス可シ

第七百三十六條 債權者カ不動産ノ強制管理ヲ爲サシメサル間ハ債務者尙ホ其不動産ノ使用及ヒ管理ヲ爲ス事ヲ得

第七百三十七條 差押ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 不動産ノ位置并ニ其重ナル成立部分ノ記載及ヒ如何ナル建築物カ其不動産ニ存在スル事又ハ其不動産ニ建築物ノ全ク存在セサル事ノ明示

第二 不動産ノ總坪數、地租賦課ノ爲ノ評定セラレタル其價額及ヒ其不動産ニ付キ納ム可キ一年ノ租額

第三 債務者カ不動産所有者トシテ地所帳ニ記入セラレタル事ノ明示又其記入ナキ時ハ不動産ニ付テノ債務者ノ所有權カ債權者ニ由リ證セラレタル證明書ノ表示

第四 不動産ニ付キ記入簿ニ記入セラレタル抵當債權ノ額、利息ノ割合、元金并ニ利息ノ支拂期日、記入ノ日附及債權者ノ氏名身分、職業、住所ノ記載又ハ抵當權カ記入セラレサル事ノ明記

第五 不動産ノ質貸借ノ場合ニ於テハ質借人ノ氏名、身分、職業、住所ノ表示及質借時期、借料ノ額又ハ其他契約ノ重要ナル約定ニ付キ知リタル情況

第六 債務者ニ差押ヲ通知シタル事又ハ後日ニ至リ如何ニ之ヲ通知ス可キヤノ明示

執達吏ハ第一號乃至第四號ニ定メタル要件ヲ知ル爲メ地所帳又ハ記入簿ノ提出ヲ地所帳役所ニ求ムルノ權利アリ

第七百三十八條 執達吏ハ差押債權者ニ對シ又執行裁判所ノ管轄區内ニ於テ爲ス事ヲ得ヘキ時ハ各抵當債權者ニ對シ第六百四十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ從ヒ差押ヲ通知ス可シ

第七百三十九條 執達吏ハ差押後通ク共三日内ニ其差押ニ付キ裁判所ニ報告ヲ爲ス可シ

裁判所ニ差出ス可キ認證セラレタル調書ノ原本ニハ差押記入ノ原本ヲ添へ又債權者カ不動産ニ付キ地所帳ニ記入セサル債務者ノ所有權ヲ其差出シタル證明書ヲ以テ證シタル時ハ其證明書ノ原本ヲ添フ可シ

第七百四十條 裁判所ハ差押手續ノ適否ヲ調査シ若シ違背アル事ノ顯ハル、時ハ之ヲ更正スルニ必要ナル命ヲ發ス可シ

裁判所ハ其裁判管轄區外ニ住スル抵當債權者ニ對シ差押ノ通知書ヲ送達ス可シ

第七百四十一條 執行裁判所ノ所在地ニ住セサル抵當債權者ハ其所在地ニ住スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツルノ義務アリ若シ抵當債權者力之ヲ怠リタル時ハ第六百六十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七百四十二條 抵當債權者ノ住所ノ不分明ナル時又ハ其死亡ノ場合ニ於テ相續人ノ知レス若クハ其住所ノ不分明ナル時又ハ抵當債權者若クハ其相續人カ明示セラレタル住所ニ住セサル事ノ顯ハルル時ハ差押通知書ノ送達及ヒ其他抵當債權者若クハ其相續人ニ對シテ爲ス事ヲ要ス可キ送達ハ裁判所揭示板ニ於ケル揭示ヲ以テ之ヲ爲ス

送達ハ揭示ヲ以テ爲サレタルモノト看做サル但其揭示ヲ爲シタル

事ハ記録ニ之ヲ登記ス可シ

第七百四十三條 差押債權者、各抵當債權者及ヒ債務者ハ執達吏ヨリ差押ノ通知ヲ受ケタル日又ハ差押ニ付テノ裁判上ノ通知書ヲ送達セラレタル日ヨリ起算シテ十四日ノ期間内ニ適法ナル最低ノ競買價額ニ關シ及ヒ賣却ノ特別條件ニ關シ裁判所ニ申立ヲ爲スノ權利アリ

右ノ申立カ爲サレタル時ハ裁判所ハ其申立人及ヒ其他ノ當事者ヲ説明ノ爲メ呼出ス可シ

裁判所ハ競標ヲ以テ總關係人ヲ呼出シテ説明ヲ爲サシムル事ヲ得ル適法ナル最低ノ競買價額ニ關シテハ不動産ニ付キ其地ト時トニ於ケル相當ノ普通賣却價額ヲ探知スル爲メ説明ヲ爲サシム可シ但適當トスル場合ニ於テハ檢證ヲ爲シ又ハ鑑定人ヲ審訊スル事ヲ得

第七百四十四條 適法ナル最低ノ競買價額ハ當事者間ニ別段ノ合意

アラサル時ハ課税ノ爲メ其不動産ヲ評定シタル價額ト定ム可シ
若シ其評定價額カ確定セラレサル時ハ裁判所ハ當事者ヲ審訊シ又
適當トスル場合ニ於テハ檢證ヲ爲シ又ハ鑑定人ヲ審訊シタル上適
法ナル最低ノ競買價ヲ定ム可シ

第七百四十五條 法律上ノ賣却條件ハ當事者間ニ別段ノ合意アラサ
ル時ハ左ノ如シ

第一 裁判所又ハ差押債權者ハ明示セラレタル坪數及ヒ其他不動
産ノ表示ノ爲メ差押調書ニ掲ケタル事項ニ付キ賣ニ任セスシテ
賣却ヲ爲ス

第二 不動産ノ物上義務ニシテ第三者ニ對シ有効ナラシムル爲メ
記入簿ニ記入スル事ヲ要セサルモノハ賣却ニ因リテ變更ヲ受ケ
ス

第三 裁判上ノ競落決定ノ買渡アリタル時ハ競落人ハ代金支拂ニ

付テノ賣務ヲ履行スル條件ヲ以テ其所有權ヲ得取シ且危險及ヒ
收益モ同時ニ其競落人ニ移ル

第四 競落人ハ自己ノ危險及ヒ費用ニテ不動産ノ再度ノ競賣ヲ爲
サルノ事ヲ避ケル爲メ裁判所ノ指定ス可キ期日ニ代金ヲ現拂シ
且競落決定ノ買渡ノ日ヨリ支拂ノ日マテノ法律上ノ利息ヲ之ニ
付ス可シ

第五 競落人ハ代金ノ外ニ所有權轉付ノ證印費用、地所帳ニ於ケ
ル其所有權記入ノ費用及ヒ記入簿ノ必要ナル更正ノ費用ヲ負擔
ス可シ

第七百四十六條 其他適法ナル最低ノ競買價額ヲ定ムル事又ハ法律
上ノ賣却條件ノ外ニ特別條件ヲ設クル事ハ總當事者ノ承諾ヲ以テ
ノミ之ヲ許スト雖モ法律上ノ賣却條件ト牴觸スル賣却條件ハ之ヲ
設クル事ヲ許サス

適法ナル最低ノ競買價額ヲ定ムル事及ヒ特別ノ賣却條件ヲ設クル事ニ關スル裁判所ノ裁判ニ對シテ爲ス不服ノ申立ハ競落ノ許否ニ關スル決定ニ對シ許サレタル上訴ヲ以テノミ之ヲ爲ス事ヲ得一第七百七十四條以下一

第七百四十七條 裁判所ハ職權ニ依リ公告ヲ以テ競賣期日ヲ定メ及ヒ競落ヲ許ス事ニ關スル決定ノ言渡ノ期日ヲ定ム

第七百四十八條 競賣期日ハ少ナク共三十日ノ後タル可シ

其期日ハ不動産ノ存在スル市町村ニ於テ市長又ハ區長立會ノ上執達吏之ヲ關ク可シ

第七百四十九條 競落ヲ許ス事ニ關スル決定ノ言渡期日ハ競賣期日ヨリ七日ノ後タル事ヲ得ス

其期日ハ裁判所内ニ於テ裁判所之ヲ關ク

第七百五十條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ包含スル事ヲ要ス

民新草ノ一七五

第一 不動産ノ位置、名稱、番號ノ表示、其總坪數、地稅ノ爲メ評定セラレタル價額并ニ納ム可キ一年ノ租額

第二 適法ナル最低ノ競買價額

第三 競賣期日ノ場所并ニ日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名并ニ住居

第四 競落ヲ許ス事ニ關スル判定ヲ言渡ス可キ期日ノ場所及ヒ日時

第五 差押調書ヲ執達吏ニ就キ閱覽シ得ヘキ事及ヒ特別ノ賣却條件一其條件ノ設ケラレタル時一并ニ最低ノ競買價額ノ確定ニ關スル説明書一其説明アリタル時一ヲ裁判所書記ニ就キ閱覽シ得ヘキ事

第七百五十一條 競賣期日ノ公告ハ正本ヲ左ノ箇所ニ揭示スルヲ以テ之ヲ爲ス

第一 裁判所揭示板

第二 不動産ノ存在スル市町村ニ於テハ戸長、郡長又ハ區長ノ役場ノ揭示板

第三 競賣ス可キ不動産

第四 往來ノ繁キ地又ハ公衆ノ集合スル地

揭示ヲ輪旋スルハ執達吏ノ任トス其執達吏ニハ此力爲ノ公告ス可キ正本ノ必要ナル數ヲ交付ス可シ

公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ新聞紙ニ掲載スル事ヲ以テモ亦之ヲ爲ス事ヲ得

何人ニテモ競賣ノ結果ニ付キ利害關係ヲ有スルモノハ右ノ外自己ノ費用ヲ以テ公告ヲ爲ス事ヲ得

第七百五十二條 差押債權者、各抵當債權者及ヒ債務者ハ公告書ノ正本ノ送達ニ因リテ競賣期日ニ之ヲ呼出ス可シ

第七百五十三條 公告書ノ正本及ヒ特別ノ賣却條件書ノ正本ハ執達

吏之ヲ受取リテ記録ニ編入ス可シ

戸長又ハ區長ニハ競賣期日ニ出頭ス可キ事ヲ催告シテ公告書ノ正本ヲ送達ス

第七百五十四條 競賣期日ノ公告ヨリ其開始マテハ競買書ヲ執達吏ニ差出ス事ヲ得

競買書ニハ左ノ諸件ヲ掲クル事ヲ要ス

第一 不動産ノ明白ナル表示

第二 少ナク共通法ナル最低ノ競買價額ニ達スル提供代金ノ明示

第三 特別ノ賣却條件ヲ設ケタル時ハ競買人カ其條件ニ從ヒタル

事ノ陳述

執達吏ハ競買人ノ求ニ因リ其競買書ノ領收ヲ書面ヲ以テ證ス可シ
競賣期日ノ開始後ニハ競買書ハ最早之ヲ取下クル事ヲ得ス

第二項ニ掲ケタル要件ニ適セサル競買書又ハ定マリタル金額ヲ以テ代金ヲ表セスシテ他ノ期ス可キ競買價額ニ對スル比例ヲ以テノミ之ヲ表スル競買書ハ之ヲ顧ミル事ヲ得ス

第七百五十五條 競賣期日ヲ開始スルニ際シ執達吏ハ差押調書ヲ各人ノ閱覽ニ供シ且高聲朗讀ニ因リテ適法ナル最低ノ競買價額及ヒ法律上ノ賣却條件并ニ特別ノ賣却條件ヲ公告ス可シ
其後ニ至リ競買價額ノ申出ヲ催告ス可シ

適法ナル最低ノ競買價額ニ達セサル競買價額又ハ朗讀シタル賣却條件ニ適セサル競買價額ハ之ヲ顧ミル事ヲ得ス

第七百五十六條 爭訟カ發屬セシ各裁判所及ヒ執行裁判所ノ判事、官吏、執達吏并ニ其補助人ヲ競買ヨリ除斥スル事ニ關シテハ第六百七十六條ノ規定ヲ準用ス此規定ハ戶長又ハ區長ニ關シテモ之ヲ適用ス

第七百五十七條 差押債權者、抵當債權者又ハ債務者カ異議ヲ申立テタル時ハ特別ノ賣却條件ニ於テ別段ノ定メ有ルニ非サレハ競買人ヲ許ス事ヲ得ス又其競買價額ヲ顧ミル事ヲ得ス但競買人カ其競買ノ保證トシテ價額十分一二當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預ケタル時ハ此限ニ在ラス

異議ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ流フル事ヲ要ス其異議ハ同一ナル競買人ノ他ノ各競買價額ニ付テモ亦効力ヲ有ス

第七百五十八條 許サレタル口頭競買價額ノ呼上ハ動産ノ競賣ニ際シ競買價額ヲ呼上クルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買力許サル、マテ其價額ニ拘束セラレ

競買ハ競買價額ヲ申出ツ可キノ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終結スル事ヲ得ス

第七百五十九條 口頭ノ競買終結シタル後ハ提出シタル競買書ヲ出席者ノ目前ニ於テ開封シ之ヲ高聲ニ朗讀ス可シ
競買書ニハ第七百五十七條ノ規定ヲ適用ス

口頭ノ最高競買ト書面上ノ最高競買ト同額ナル時ハ執達吏カ戸長又ハ區長ノ手中ヨリ抽ク可キ籤ヲ以テ其競落人ヲ定ム

第七百六十條 執達吏ハ何人カ最高競買價額ヲ申出タルニ因リ不動産ノ競落人ト爲リタルヤ及ヒ最高競買價額ノ幾何ナルヤヲ高聲ニ告知ス可シ

他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證物ノ即時返還ヲ求ムルノ權利アリ

其後ノ競買ハ之ヲ採用スル事ヲ許サス

第七百六十一條 競買ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ條件ヲ掲ク可シ

- 第一 差押調書ヲ各人ノ閱覽ニ供シタル事ノ明示及ヒ適法ナル最低ノ競買價額并ニ賣却條件ヲ朗讀ニ因リテ通知シタル事ノ明示
- 第二 競買價額ノ申出ヲ催告シタル時日ノ明示
- 第三 總テ許サレタル口頭競買ノ記載及ヒ其競買人ノ氏名住所ノ詳細ナル表示又許サル可キ口頭ノ競買ノ申出テラレサリシ時ハ其旨ノ附記

第四 口頭ノ競買ヲ終結シタル時日ノ明示

第五 總テ書面競買ノ記載及ヒ口頭競買ノ終結後ニ其競買書ヲ朗讀朗讀シタル事ノ明示又許サル可キ書面競買ノ提出セラレサリシ時ハ其旨ノ附記

第六 口頭ノ競買又ハ書面ノ競買ニ對シ異議カ申立テラレ且其競買ノ爲メ保證カ立テラレタル時又ハ保證ヲ立テラレサル爲メ其競買カ許サレサル時ハ此ニ關スル情況ノ明示

第七 如何ナル人ヲ競落人トシ且如何ナル競買價額ヲ最高ノ競買價額トシテ告知シタルヤノ明示

口頭ノ競買ヲ申出テタル競買人及ヒ出席シタル差押債權者、各抵當債權者并ニ債務者ハ調書ニ署名捺印ス可キ者トシ若シ此等ノ者カ調書ノ終結前ニ退席シタル時ハ其旨ヲ調書ニ明示ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預ケタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタル時ハ執達吏ハ受取證書ヲ取ル可シ

受取證書及ヒ競買書ハ調書ニ之ヲ添置ク可シ

調書ノ檢認ハ執達吏及ヒ戸長又ハ區長之ヲ爲ス

第七百六十二條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ寄託セラレタル金銭又ハ有價證券ニシテ返還セラレサルモノヲ週ク共三日内ニ裁判所書記ニ渡ス可シ

第七百六十三條 競落人及ヒ競落人タルノ告知ヲ受ケサルモ競落ヲ

得ルノ權利アリト申立ツル競買人ハ執行裁判所ノ所在地ニ住セサル時ハ同地ニ住スル第三者ノ方ニ於テ住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタル時ハ第六十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執達吏ノ面前ニ於テ調書ニ記載セシメ又ハ其差出シタル競買書中ノ陳述ニ因リテ之ヲ爲ス事ヲ得

第七百六十四條 若シ適法ナル競買價額カ競賣期日ニ口頭ヲ以テモ又其期日前ニ書面ヲ以テモ申出ラレサリシ時ハ裁判所ハ職權ヲ以テ其適法ナル最低ノ競買價額ノ三分一ヲ減少シ新ナル競賣期日ヲ定ム可シ

新ナル競賣期日ハ少ク時十五日ノ後タル可シ

若シ再度ノ競賣ニ於テ適法ナル競買價額カ申出ラレサル時ハ第三次同ノ競賣ニ付テハ適法ナル最低ノ競買價額ノ定ハ其効力ヲ失ヒ且

競賣期日ノ公告中ニ競買價額ヲ其多寡ニ拘ハラスシテ許ス可キ事
ヲ明記ス可シ

第七百六十五條 競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテ
ハ債權者ハ競賣手續ノ停止ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾シ又第五百九
十二條、第五百九十三條及ヒ第六百九條乃至第六百十三條ノ場合
ニ於テハ債務者又ハ第三者ハ其手續ヲ停止セシムル事ヲ得

第七百六十六條 執達吏ハ差押調書ヲ既ニ裁判所ニ差出シタル時ハ
手續停止ノ原由タル情況ニ付キ其裁判所ニ報告ヲ爲ス可シ
裁判所ハ既ニ競賣期日ヲ公告シタル時ハ期日ヲ取消シ其旨ヲ期日
ニ呼出シタル利害關係人ニ通知シ且呼出ノ爲メ揭示并ニ貼紙ヲ除
去シ及ヒ裁判所揭示板ニ揭示ヲ爲シテ期日ノ取消ヲ公告シ又適當
トスル場合ニ於テハ新聞紙ニ爲シタル掲載ヲ取消スヲ以テ之ヲ公
告スル事ヲ命ス

第七百六十七條 各競買人ハ競賣手續ノ停止ヲ以テ其競買ノ責務ヲ
免カル

若シ執達吏カ競賣期日ヲ開始セス又ハ其期日ニ開始シタル競賣行
爲ヲ止メタル時又ハ裁判所ノ命ニ應シ期日取消ノ公告ヲ裁判所掲
示板ニ揭示シテ爲シタル時ハ競賣手續ハ停止セラレタルモノト看
做サル

第七百六十八條 差押債權者カ停止シタル競賣手續ノ繼續ヲ執達吏
ニ委任シタル時ハ執達吏ハ此事ニ關シテ裁判所ニ報告ヲ爲シ裁判
所ハ債權者ノ求テ理由アリトスル時ハ競賣期日ノ指定ノ爲メ必要
ナル處分ヲ爲サシム可シ

第七百六十九條 競賣手續ハ同時ニ差押ノ廢棄ナキ時ハ差押債權者
ノ求又ハ承諾ニ基キ一回ニ限り三十日ヲ過キサル期間之ヲ停止ス
ル事ヲ得若シ差押債權者カ競賣手續ノ停止後三十日ノ期間内ニ其

繼續ヲ求メサル時ハ執達吏ハ其旨ヲ裁判所ニ届出テ裁判所ハ職權ヲ以テ差押ノ廢棄ヲ命ス可シ

第七百七十條 競賣手續カ競賣期日ニ於テ競落人ノ誰タルヤノ告知アルマテ繼續セラレタル時ハ裁判所ハ出頭シタル當事者ヲ審訊シタル後言渡期日ニ發ス可キ判定ヲ以テ競落ノ許否ニ付キ裁判ヲ爲ス可シ

第七百七十一條 差押債權者、各抵當債權者及ヒ債務者ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ違背アリタル時ハ言渡期日ニ於テ競落ヲ許ス事ニ付キ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

又左ノ者ハ右ト同一ノ理由ニ因リ言渡期日ニ於テ異議ヲ申立ツル事ヲ得

第一 告知セラレタル競落人ハ自身カ競落人トシテ告知セラル、ノ理由ナキ旨ヲ主張シテ競落ニ對シ異議ヲ申立ツル事ヲ得

第二 他ノ各競買人ハ自身カ競落人トシテ告知セラル可キノ理由アル旨ヲ主張シテ競落ヲ求メシ爲メ異議ヲ申立ツル事ヲ得

又裁判所ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ違背ヲ職權ヲ以テ觀察ス可シ

言渡期日ニ於テ爲シタル事項ニ付テハ第二百五十二條以下ノ規定ニ從ヒ調書ヲ作ル可シ若シ其期日ニ判定ヲ言渡ス事ヲ得サル時ハ更ニ言渡期日ヲ定メ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ

第七百七十二條 若シ不動產カ其全部ニ於テ又ハ各箇ノ成立部分又ハ附屬物ニ於テ競賣ノ時ト競落ノ許否ニ關スル判定ノ言渡期日トノ間ニ天災又ハ其他ノ事變ニ因リ著シク價額ノ減少ヲ受ケタル時ハ告知セラレタル競落人ハ其競買ヲ取消スノ權利アリ

主張セラレタル價額ノ減少カ著シキモノタルヤ否ハ裁判所之ニ關スル情況ヲ斟酌シテ之ヲ定メ又適當トスル場合ニ於テハ檢證ヲ爲

シ又ハ鑑定人ヲ審訊シタル後之ヲ定ム可シ

第七百七十三條 競落ヲ許ス判定書ニハ競賣セラレタル不動産、競落人及ヒ競落ノ許サレタル競買價額ヲ掲ケ其競落カ特別ノ賣却條件ヲ以テ爲サレタル時ハ其條件ヲモ掲ク可シ

競落ヲ許サ、ル判定書ニ於テハ不動産ノ再度ノ競賣ヲモ命ス可シ其判定ハ買渡スノ外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第七百七十四條 差押債權者、各抵當債權者及ヒ債務者ハ競落ノ許否ニ關スル判定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其判定ニ對シ抗告ヲ爲スノ權利アリ

又左ニ掲クル者ハ抗告ヲ爲スノ權利アリ

第一 競落カ許サル、ノ理由ナキ事又ハ判定書ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許サル可キ事ヲ主張スル競落人

第二 競落チ己レノ爲ノニ請求シ且己レニ其競落カ許サル可キ事ヲ主張スル競買人

競落チ許サレル事ニ關スル抗告ハ競賣手續ニ關スル重要ナル成規ノ違背ナキ事ノミチ以テ理由トシ又競落チ許シタル事ニ關スル抗告ハ此ノ如キ違背アル事ノミチ以テ理由トスル事ヲ得

第七百七十二條ノ場合ニ於テハ右抗告理由ノ制限ヲ適用セス

第七百七十五條 抗告ハ判定ノ買渡チ以テ始マル可キ七日ノ期間ニ拘束セラレ執行停止ノ効力ヲ有ス執行裁判所ハ其裁判ヲ變更スルノ權利ナシ

同一ノ判定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

第七百七十六條 抗告裁判所ハ反對陳述書ノ差出又ハ口頭陳述論ノ爲ノ當事者ノ呼出ヲ決定シタル場合ニ於テ如何ナル人ヲ抗告者ノ相手方トシテ立會ハシム可キヤヲ定ム

相手方ノ申述ハ第七百七十四條第三項ニ掲ケタル制限ニ從フ
第七百七十一條第三項及ヒ第七百七十四條第四項ノ規定ハ抗告審
ニモ亦之ヲ適用ス

第七百七十七條 若シ抗告裁判所カ抗告ヲ理由アリトスル時ハ判定
ヲ變更シテ事件ニ付キ裁判ス可シ

若シ競落ヲ許サ、ル判定カ廢棄セラレテ別ニ競落ヲ許サ、ル時ハ
其判定書ニ於テハ不動産ノ再度ノ競賣ヲモ命ス可シ

第七百七十八條 若シ不動産ノ適法ナル最低ノ競賣價額カ五百圓以
上ナル時ハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シ更ニ抗告ヲ爲ス事ヲ得又適法
ナル最低ノ競賣價額ナキ場合ニ於テハ不動産ノ評定價額ヲ以テ標
準トス

第七百七十九條 抗告ニ關スル判定書ハ抗告者及ヒ其立會ヒタル相
手方ニ之ヲ送達シ又執行裁判所ノ判定カ變更セラレ又ハ廢棄セラ

レタル時ハ其裁判所ハ裁判所掲示板ニ掲示シテ之ヲ公告ス可シ

第七百八十條 競落ヲ許サ、ル事ノ確定ト爲リタル時ハ告知セラレ
タル競落人及ヒ己レノ爲メ競落ヲ求メタル他ノ各競買人ハ其競買
ノ責務ヲ免カル

新ナル競賣期日ハ少ナク共十五日ノ後タル可シ

若シ第七百七十二條ノ場合ニ於テ最高ノ競買價額ノ取消ノ爲メ競
落カ許サレサル時ハ裁判所ハ新ナル競賣期日ヲ指定スルノ前ニ競
標ヲ以テ當事者總員ヲ呼出シタル上更ニ適法ナル最低ノ競買價額
ヲ定ムル事ニ付キ説明ヲ爲サシム可シ若シ其合意成ラサル時ハ裁
判所ハ不動産ノ受ケタル價額ノ減少ニ準據シテ適法ナル最低競買
價額ヲ定ム可シ

第七百八十一條 競落ヲ許ス事ノ確定ト爲リタル時ハ不動産賣却代
金ノ全額内ヨリ左ニ掲ケル順序ヲ以テ濟済ス可シ

第一 不動産ノ占有者ヨリ其占有者トシテ納ム可キ國稅、地方稅及ヒ市町村稅ノ滯納額

第二 不動産ノ競落マテ繼續シタル強制管理ニ付キ差押債權者カ其不動産ノ保存及ヒ必要ナル修繕ノ爲メ爲シタル總テノ出費

第三 不動産ノ管理ノ爲メニ置キタル雇人ノ給料、食料其他ノ職務上ノ收入額

第四 差押ノ當時不動産ニ付キ抵當權ヲ記入シタル債權者ノ債權ノ元金及ヒ利息

第五 差押債權者ノ債權ノ元金并ニ利息及ヒ債務者ヨリ其債權者ニ辨償ス可キ訴訟費用并ニ強制執行ノ費用

數名ノ抵當債權者ノ債權ハ記入ノ順序ニ從ヒ之ヲ濟済ス

同一ノ順序ニ在ル可キ數箇ノ債權ハ賣却代金全額ノ不足ナル場合ニ於テハ債權額ノ割合ニ應シ平等ニ之ヲ濟済ス可シ

第七百八十二條 代金ノ支拂及ヒ分配ハ競落ヲ許ス事ノ確定ト爲リタル後職權ヲ以テ定メラル可キ期日ニ於テ之ヲ爲ス

其期日ニハ差押債權者、各抵當債權者、債務者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

債權者カ債務者ニ屬ス可キ代金ノ殘額ニ付キ差押ヲ爲シ強制管理ノ手續ニ關スル記録ニ編入スル爲メ差押屆書ヲ裁判所ニ差出シタル時ハ其債權者ヲモ亦代金支拂及ヒ分配ノ期日ニ立會ハシム可シ

右ノ外其期日ハ裁判所揭示板ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ但揭示ノ日卜期日トノ間ニハ七日ノ期間ヲ存ス可シ

若シ不動産ノ強制管理ヲ開始シ之ヲ競落マテ繼續シタル時ハ收入剩餘額ヲ期日ニ拂込マシムルノ處分ヲ爲ス可シ

第七百八十三條 期日ニ於テハ先ツ分配セラル可キ不動産ノ賣却代金全額ノ幾何ナルヤヲ定ム可シ

其代金全額ハ左ノ物ヨリ成ル

- 第一 代金及ヒ競落判定ノ旨渡ノ日ヨリ支拂日マテ法律上ノ利息
 - 第二 不動産ニ付キ開始シテ競落マテ繼續セラレタル強制管理ノ
收入剩餘額ニシテ代金ニ加フ可キモノ
- 代金ノ支拂ハ判事ニ之ヲ爲ス
- 最高競買價額ノ保證ノ爲メ預ケラレタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第七百八十四條 判事ハ出頭セシ當事者ヲ審訊シタル後裁判所書記ノ立會ヲ以テ分配案ヲ作成ス

判事ハ期日前ニ分配案ヲ起草スル事ヲ得其分配案ハ必要ナル場合ニ於テハ出頭セシ當事者ノ陳述ニ因リテ之ヲ補充ス可シ

第七百八十五條 分配案ノ作成ハ出頭セシ當事者總員カ一致シタル時ハ其一致ニ因リテ之ヲ爲シ然ラサル場合ニ於テハ下ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

分配案ニハ差押債權者ノ債權、利息、費用及ヒ差押調書ニ掲ケタル總テノ抵當債權并ニ其利息ヲ記載ス可シ

其他ノ債權ハ届出ニ基キテノミ之ヲ記載ス其届出ハ期日前ニ書面ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ陳述スル事ヲ得然レ共届出人カ期日ニ出頭セサル時ハ其届出ヲ願ミス

第七百八十六條 分配案ニ付テハ即時ニ辯論ヲ爲ス可シ

其辯論、異議ノ完結及ヒ分配案ノ實施ニ付テハ動産ニ對スル強制執行ニ於ケル分配手續ニ關スル成規ヲ準用ス（第七百十四條以下）但下ノ數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第七百八十七條 期日ニ出頭セシ債務者ハ第三項ノ規定ヲ留保シテ各債權者ノ債權ニ對シ及ヒ其債權ノ爲メ主張セラレタル順位ニ對シ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

出頭シタル差押債權者及ヒ出頭セシ各抵當債權者ハ他ノ債權者ノ債權ニ關シ右ト同一ノ方法ヲ以テ異議ヲ申立ツルノ權利アリ

執行セラル可キ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第六百十條、第六百十二條及ヒ第六百十三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

差押調書ニ依リ記入簿ニ掲ケサル事ノ顯ハル、債權ニ對シ異議カ申立テラレタル時ハ其債權ヲ届出テタル者ハ異議ヲ完結スル爲メ原告ト爲リ且其者ハ特ニ定メラレタル期間内ニ異議アル債權者ニ

對シ其債權及ヒ債權ノ爲メ主張シタル順位ノ認諾ニ付キ訴ヲ起シタル事ヲ證ス可シ

債務者、差押債權者又ハ抵當債權者ヨリ申立テタルニ非スシテ第三者ヨリ申立テタル異議ハ異議申立人カ代金ニ對スル請求權ヲ證明セサル時ハ分配案ノ實施ヲ止メス

第七百八十八條 分配案ノ實施ニ際シテハ左ノ特別ノ規定ヲ適用ス
第一 未タ辨濟期限ニ至ラサル債權ハ既ニ辨濟期限ニ至リタルモノト看做ス可シ

第二 競落人ハ抵當債務ノ額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限りハ關係債權者ノ承諾ヲ得テ其抵當債務ヲ買入代金トシテ引受クル事ヲ得若シ差押債權者自身カ競落人ナル時ハ其債權カ買入代金ノ額ニ滿ツル限りハ買入代金トシテ改算スルニ因リテ消滅ス然レ共引受ケラル可キ抵當債權又ハ改算ス可キ競落人ノ債權カ適法ナ

ル異議ヲ受ケタル時ハ此ニ相當スル代金ノ一分ヲ現拂シ又ハ此カ爲メ保證ヲ立ツ可シ

第三 若シ剩餘ヲ生スル時ハ其剩餘ハ債務者ニ屬ス然レ共其剩餘カ債權者ノ爲メ既ニ差押ヘラレタル時ハ此限ニ在ラス

第七百八十九條 競賣セラレタル不動産ノ地所帳及ヒ記入簿ニハ期日ニ於テ作りタル調書ニ基キ左ノ條件ヲ爲ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ記入及ヒ總テ競落人ノ引受ケサル抵當債務ノ取消

第二 差押記入ノ取消

競落人ノ引受ケタル抵當債權ハ變更スル事無クシテ之ヲ差置ク可シ

前記ノ帳簿更正ヲ爲サシムル爲メ裁判所ハ地所帳及ヒ記入簿ヲ取扱フ役所ニ必要ナル指圖書ヲ發シテ之ヲ執達吏ニ送付シ執達吏之

ヲ其役所ニ提出ス可シ

右役所ハ指圖書ニ依リテ帳簿ヲ更正スルノ義務アリ

第七百九十條 競落人ハ代金支拂及ヒ分配ノ期日ニ其義務ヲ完全ニ履行シタル後不動産ノ占有ヲ始ムルノ權利アリ

債務者カ其引渡ヲ拒ミタル時ハ執達吏ハ競落人ノ求ニ因リ競落判定書ノ執行力アル正本ニ基キ債務者ノ占有ヲ解キテ競落人ニ占有ヲ得セシム可シ

競落人カ代金ノ金額及ヒ競落判定書渡ノ日ヨリ供託ノ日マテノ其利息ヲ裁判所ニ供託シタル時ハ即時ニ引渡ヲ求ムルノ權利アリ

第七百九十一條 若シ競落人カ代金支拂及ヒ分配ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭セルモ其義務ヲ完全ニ履行セサル時ハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲メ定メラレタル適法ナル最低ノ競買價額及ヒ此カ

爲ノ設ケラレタル賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス
新ナル競賣期日ハ少ナク共十五日ノ後タル可シ

若シ競落人カ買入代金又ハ其拂殘ノ一分并ニ其生シタル利息及ヒ
増加費用ヲ償フニ足ル可キ金額ヲ裁判所書記ニ預ケタル時ハ競賣
手續ノ停止ヲ命ス可シ

若シ更ニ競賣ヲ爲スニ至リタル時ハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハル事
ヲ許サス其競買人ハ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キ時
ハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ擔任シ其高キ時ハ剩餘ノ額ヲ請求ス
ル事ヲ得ス

各債權者及ヒ債務者カ再度ノ競賣代金ノ分配ニ際シ前ノ競落人ノ
義務ヲ完全ニ履行セハ其受取リタル可キ金額ヨリ寡キ額ヲ受取リ
タル時ハ競落判定書ノ執行力アル正本ニ基キ強制執行ヲ以テ前ノ
競落人ヨリ其不足ノ額ヲ取立ツル事ヲ得但執行命令書ニハ其不足

ノ額ヲ證記ス可シ

第七百九十二條 不動産ノ差押カ數名ノ債權者ノ爲ノ同時ニ爲サレ
タル時ハ差押記入ニ付テハ各債權者ノ債權額各別ニ表示ス可シ

第七百九十三條 若シ第二以後ノ債權者ノ爲ノ附隨差押ヲ爲ス時ハ
新ナル差押ノ記入ヲ爲サシム可シ附隨差押ヲ爲ス執達吏ハ其差押
ニ付キ裁判所ニ報告ヲ爲ス可シ

裁判所ハ差押手續ノ適否ヲ調査シ違背アル事ノ顯ハレサル時ハ第
二以後ノ債權者ノ強制競賣ニ加ハルヲ許ス事ヲ決定ヲ以テ賣渡ス
可シ此決定書ハ債務者其加ハル事ヲ許サレタル債權者及ヒ競賣ヲ
爲ス可キ執達吏ニ之ヲ送達ス可シ

若シ附隨差押カ他ノ執達吏ニ因リテ爲サレタル時ハ競賣ニ加ハル
事ヲ許サレタル債權者ヨリ其執達吏ニ爲シタル執行委任ハ法律ニ
依リ前項ノ執達吏ニ移ルモノトス又競賣準備ノ爲ノ既ニ發セラレ

タル命ハ第二以後ノ債權者ノ爲ノニモ直チニ効力チ生ス但爾後ノ
手續ニハ其債權者チ最初ノ差押債權者ニ均シク立會ハシム可シ
若シ強制競賣力第二以後ノ債權者ノ加ハル事チ許シタル爲ノノミニ
因リテ繼續セラレ且之チ許シタル事ニ關スル決定書チ競賣期日ノ
少ナク共七日前ニ債務者ニ送達セサリシ時ハ競賣期日チ取消シテ
新ナル競賣期日チ定ム可シ但債務者力競賣手續ノ繼續チ承諾シタ
ル時ハ此限ニ在ラス

新ナル競賣期日ハ少ナク共十五日ノ後タル可シ

第七百九十四條 第七百二十九條乃至第七百九十三條ノ規定ハ事物
ノ本性ニ因リ差異ノ當然生セサル時又ハ下ノ數條ニ於テ別段ノ成
規チ設ケサル時ハ左ノ場合ニ之チ準用ス

- 第一 土地ノ所有者ニ非サル者ノ建物チ設ケタル宅地ノ強制競賣
- 第二 土地ノ所有者ニ非サル者ノ宅地ニ設ケタル建物ノ強制競賣

第三 土地又ハ建物ニ於ケル共有部分ノ強制競賣

第七百九十五條 土地ノ所有者ニ非サル者ノ宅地ニ設ケタル建物ノ
強制競賣ニ付テハ左ノ特別規定チ適用ス

- 第一 第七百三十八條、第七百四十一條及ヒ第七百四十二條ノ規
定ニ從ヒ宅地ノ所有者ニ差押チ通知ス可シ又其所有者ハ不動産
ノ抵當債權者ニ關シ規定シタルト同一ノ方法チ以テ之チ其後ノ
手續ニ立會ハシム

- 第二 宅地ノ所有者ハ賃料ニ關シ賣却代金ノ全額ヨリ借借チ受ク
ルノ權利ニ付キ第二ノ順位チ占ム

第七百九十六條 共有部分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ
債務者ノ共有部分チ強制執行ノ方法ニテ差押ヘタル事ノ記入チ爲
ス但債務者ノ共有者ニハ其差押チ通知ス可シ

適法ナル最低ノ競買價額ハ所有全部ノ割合ニ應スル債務者ノ共有

部分ノ評定價額ニ因リテ之ヲ定ム可シ

第二款 強制管理

第七百九十七條 不動産ノ收入ニ對スル強制執行ハ強制管理ノ爲メ
ノ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

債權者ハ強制競賣若クハ強制管理ノ一ヲ選定シ又ハ強制競賣ト共
ニ強制管理ヲ爲スノ權利アリ

第七百九十八條 強制管理ハ債權者ヨリ執行力アル正本ヲ提出シテ
裁判所ニ之ヲ申立ツ可シ

強制管理ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ開始ス

第七百九十九條 債權者ハ強制管理ノ開始ヲ申立ツルニ際シ債務者
カ地所帳ニ不動産ノ所有者トシテ記入セラレタル事又ハ現ニ不動
產ヲ所有スル事ヲ信スルニ足ル可キ證明書ヲ以テ證ス可シ
不動産カ強制競賣ノ爲メ既ニ執達吏ニ因リテ差押ヘラレタル時ハ

適當トスル場合ニ於テハ差押證書ニ明示シタル事項ヲ援用シテ前
項ノ要件ニ換フル事ヲ得

第八百條 裁判所ハ開始ノ決定ニ於テ差押債權者ノ爲メ其債權ヲ表
示シテ不動産ノ收入ヲ差押フル事ヲ宣言シ且任セラル可キ管理者
ノ業務施行ニ參涉シ及ヒ不動産ノ收入ヲ處分スル事ヲ債權者ニ禁
ス可シ

既ニ土地ヨリ離レ又ハ未タ土地ヨリ收穫セサル果實及ヒ既ニ期限
ニ至リ又ハ未タ期限ニ至ラサル借料若クハ其他不動産ノ收入タル
第三者ノ給付ハ前項ノ收入タリ

第八百一條 裁判所ハ開始決定ヲ發スルト同時ニ執達吏ニ命シテ差
押記入ヲ爲サシメ且記入簿ニ記入シタル抵當債權ノ目錄ヲ作ラシ
ム可シ

若シ執達吏カ不動産ヲ強制競賣ノ爲メ既ニ差押ヘタルニ因リテ前

項ノ處分ヲ爲ス事ノ不要用ト爲リタル時ハ之ヲ爲ス事ヲ要セス

第八百二條 管理者ハ裁判所之ヲ任ス但債權者カ適當ノ人ヲ推薦スルノ權利ハ此カ爲メ妨ケラレス

裁判所ハ債權者ヲ管理者ニ任スル事ヲ得

判事又ハ裁判所ノ命スル執達吏ハ不動産ヲ其管理及ヒ收入取立ノ爲メ管理者ニ引渡ス可シ

第八百三條 債權者ハ有體動産ノ差押ニ關シ定メタルト同一ノ効力ヲ以テ不動産ノ收入ニ對スル質權ヲ差押ニ因リテ得取ス

收入ノ差押及ヒ收入ニ對スル質權ハ開始決定書ヲ債務者ニ送達シ又ハ不動産ヲ管理者ニ引渡スニ因リテ爲サレタルモノト看做サル不動産ノ收入タル給付ヲ爲ス第三者ニ對シテハ差押ハ管理者又ハ不動産ノ引渡ヲ爲ス官吏ヨリ之ヲ通知スルヲ以テ効力ヲ生ス然レ共裁判所ハ債權者又ハ管理者ノ申立ニ因リテ給付ヲ債務者ニ爲ス

事ヲ右第三者ニ禁シ且給付ヲ管理者ニ對シテ爲ス事ヲ之ニ催告ス可シ

第八百四條 管理者ハ其任命ニ基キ拂殘ノ分ヲモ包含シタル總收入ヲ取立テ不動産ノ保存及ヒ利用ノ爲メ要用ナル命ヲ發シ且此カ爲メ必要ナル訴ヲ起スノ權利アリ

裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理者ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理者ノ業務施行ヲ監督スルノ指圖ヲ管理者ニ爲ス可シ

裁判所ハ管理者ニ保證ヲ立テシメ又ハ二十圓以下ノ過料ヲ科シ又ハ其職ヲ免スル事ヲ得

第八百五條 管理者ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收入ヨリ國稅、地方稅、市町村稅ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用及ヒ出費ヲ濟済ス若シ不動産ノ收入ヨリ更ニ支拂ヲ爲シ得ルノ

見込アル時ハ裁判所ハ第七百八十一條、第七百八十二條第一項乃至第三項、第七百八十五條乃至第七百八十七條及ヒ第七百九十五條ノ規定ヲ準用シテ分配案ヲ作成シ其分配案ニ基キ管理者ヲシテ支拂期日ニ於テ必要ナル支拂ヲ債權者ニ爲サシム可シ

第八百六條 強制競賣ノ手續ニ於テ不動産ノ競賣力確定ト爲リタル時ハ未タ分配セサル收入ハ分配手續ニ於テ分配ス可キ代金全額ニ之ヲ加フ可シ

第八百七條 管理者ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後差押債權者及ヒ債務者ニ計算書ヲ差出スノ義務アリ

管理者ハ催告ヲ受ケサルモ適當ナル時間ニ右計算書ヲ裁判所ニ差出ス事ヲ要ス

裁判所ハ計算ノ調査ノ爲メ期日ヲ定メ其期日ニハ管理者、債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ

管理者其期日ニ出頭セサル時ハ期日ノ費用ハ管理者ノ負擔ニ歸ス出頭セサル債權者又ハ債務者ハ計算ニ對シ全ク異議ナク且管理者ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做サル

裁判所ハ職權ヲ以テ計算ノ正當及ヒ完全ナルヤ否ヲ調査ス可シ調査ノ期日ニ於テハ計算ニ付キ起ル異議ニ關シテ管理者ヲ審訊シ如何ナル異議ヲ完結シタルモノト看做ス可キヤ否ヲ定ム可シ若シ異議力逃ヘラレス又ハ逃ヘラレタル異議力完結シタル時ハ裁判所ハ管理者ノ卸任ヲ爲ス

第八百八條 管理ノ廢止ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

其廢止ハ差押債權者カ不動産ノ收入ヲ以テ擔償セラレタル時ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ差押ノ繼續ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スル時債權者カ必要ノ金額ヲ立替ヘサルニ於テハ裁判所ハ管理手續ノ廢止ヲ命スル事ヲ得

第八百九條 若シ第二以後ノ債權者カ既ニ開始セル不動産ノ強制管理ニ加ハラント欲スル時ハ其許可ヲ得ント裁判所ニ申立ツ可シ
裁判所ハ其申立ヲ調査シ別ニ不都合アラサル時ハ第二以後ノ債權者ニ其債權ノ爲ノ前強制管理ニ加ハルヲ許ス事ヲ決定ヲ以テ旨渡ス可シ

其決定書ハ債務者、許サレタル債權者及ヒ管理者ニ之ヲ送達ス可シ

其許可ハ許サレタル債權者ノ爲ノ收入差押ノ効力ヲ有ス

第八百十條 法律上ノ規定ニ戻ラサル限りハ債務者ノ世襲不動産ニ對シ強制管理ヲ以テ強制執行ヲ爲ス事ヲ得

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第八百十一條 船舶ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル成規ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ本性ニ因リテ差異ノ顯ハル、時

又ハ下ノ數條ニ於テ別段ノ成規ヲ設ケタル時ハ此限ニ在ラス

第八百十二條 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所カ執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス

第八百十三條 若シ船長カ所有者ノ承諾ヲ得スシテ航海中其船舶ニ負ハシノタル債務ヲ船舶債權者ノ訴ニ因リテ支拂フ可キ旨ヲ旨渡サレタル時ハ其判決ハ所有者ニ對シテモ亦之ヲ執行スル事ヲ得

第八百十四條 執達吏ハ債務者カ船舶所有者トシテ船舶登記簿ニ記入セラレタル時又ハ債權者カ信スルニ足ル可キ證書ヲ以テ債務者ノ所有權ヲ證シ又前條ノ場合ニ於テハ債務者ノ船長タル資格ヲ證シタル時ニ限り差押ヲ爲ス事ヲ得

船長ニ對スル差押カ正當ニ爲サレタル時ハ其後ニ至リ所有者又ハ船長ノ變更シタルモ此カ爲メ差押手續ノ繼續ヲ妨ケス

第八百十五條 開港ノ爲メ轉裝シタル船舶ハ債務ノ爲メ之ヲ差押フ

ル事ヲ得ス但其始ム可キ航行ノ爲ノニ爲シタル債務ニ付テハ此限
ニ在ラス

差押カ許サル可キモノナル時ハ債權者ノ申立ニ因リテ其旨ヲ執行
命令書ニ附記ス可シ

其差押ヲ許ス事ノ附記アラサル時ハ執達吏ハ其差押ニ着手スル事
ヲ得ス

第八百十六條 差押ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可
シ

第一 船舶ノ名稱并ニ番號ノ明示、船長ノ氏名、身分、住所ノ表
示及ヒ船舶ノ定盤港ノ表示

第二 船舶ノ種類ノ表示、其構造、大小并ニ積量ノ明示及ヒ船舶
ノ詳細ナル記載

第三 前二條ノ規定ニ從ヒ船舶ノ差押ヲ正當ト爲ス可キ情況ノ明

示

第四 差押カ定盤港ノ區裁判所管轄區内ニ於テ爲サレタル時ハ船
舶ニ付キ記入簿ニ記入シタル質權ノ額、利息ノ割合、元金并ニ
利息ノ支拂期日記入ノ日附及ヒ債權者ノ氏名、身分、職業、住
所ノ記載又ハ質權カ記入セラレサル事ノ明記

第五 債務者ニ差押ヲ通知シタル事又ハ後日ニ至リ如何ニ之ヲ通
知ス可キヤノ明示

第八百十七條 船舶ハ執行手續中差押ノ地ニ之ヲ置ク事ヲ要ス
若シ船舶ノ看守、保管及ヒ保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ要スル時ハ裁
判所ハ債權者ノ申立ニ因リ適當ナル方法ヲ以テ其處分ヲ爲ス可シ
急迫ナル場合ニ於テハ執達吏ハ差押ノ後直チニ其處分ヲ爲ス事ヲ
得

若シ債權者カ其處分ノ繼續ノ爲メ必要ナル金額ヲ立替ヘサルニ於

テハ再ヒ其處分ヲ廢止スル事ヲ得

第八百十八條 定盤港ノ區裁判所管轄區外ニ於テ差押ヲ爲シタル時
ハ執行裁判所ハ調書ノ原本ヲ受取りタル後其認證セラレタル原本
ヲ定盤港ノ區裁判所ニ送致シ執達吏ヲシテ差押記入ヲ爲サシムル
事及ヒ記入簿ニ記入シタル船舶債權者ノ表ヲ作ラシムル事ヲ其區
裁判所ニ囑託ス可シ
執行裁判所ハ其表ニ依リ差押ノ通知書ヲ記入簿ニ記入セラレタル
船舶債權者ニシテ裁判管轄區外ニ住スル者ニ送達スル事ヲ命ス可
シ

第八百十九條 其他ノ執行手續ニハ記入簿ニ記入セラレタル船舶債
權者ノ外總テ船舶ノ質入ニ關スル證書ヲ提出シテ裁判所ニ届出テ
タル他ノ船舶債權者ヲ關係人トシテ立會ハシメ又第八百十三條ノ
場合ニ於テハ所有者及ヒ差押後新ニ就職シタル船長ヲ關係人トシ

テ立會ハシム可シ但此等ノ者カ裁判所ニ届出ヲ爲シテ其權利ヲ疏
明シタル時ニ限ル

若シ新船長カ就職シタル時ハ前船長ハ執行手續ノ關係ヲ免カル
差押ニ立會ハサル第三者カ船舶ニ付キ所有權又ハ記入簿ニ記入セ
サル質權ヲ有スル場合ニ於テ其船舶ノ差押アリタル時ハ債務者ハ
差押ヲ通滞ナク第三者ニ通知スルノ義務アリ若シ債務者其通知ヲ
怠リタル時ハ此カ爲メ第三者ニ生セシメタル損害ノ責ニ任ス

第八百二十條 差販所ハ鑑定人ヲシテ地卜時トノ關係ニ相當スル船
舶ノ普通賣却價額ヲ評定セシム可シ
適法ナル最低ノ競買價額ハ當事者ノ間ニ別段ノ合意アラサル時ハ
評定價額ヲ以テ其適法ナル最低ノ競買價額ト定ム可シ

第八百二十一條 競賣期日ノ公告ニハ第七百五十條第一號ニ定メタ
ル明示ニ代ヘテ船舶ノ名稱、番號、船長ノ氏名、船舶ノ種類、機

造、大小并ニ積量及ヒ其碇泊ノ場所ノ表示ヲ掲クル事ヲ要ス

第八百二十二條 定製港ノ區裁判所管轄區外ニ於テ差押ヲ爲シタル

時ハ競賣期日ノ公告ハ正本ヲ定製港ノ裁判所揭示板ニ揭示シテ之

ヲ爲ス可シ執行裁判所ハ定製港ノ區裁判所ニ囑託シテ其揭示ヲ爲

サシム

第八百二十三條 裁判所ハ執行手續ノ終リタル後第七百八十九條ノ

規定ヲ準用シテ船舶登記簿及ヒ記入簿ノ更正ヲ爲サシム可シ

第八百二十四條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第七百十三條ノ規

定ニ從ヒ裁判上ノ差押ニ因リテ之ヲ爲ス

其差押命令ヲ發スル事ニ付テハ定製港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第八百二十五條 債權者ハ差押命令ヲ發スルノ申立ヲ爲スニ際シ信

スルニ足ル可キ證明書ヲ以テ船舶ノ股分ニ付キ債權者ノ所有權ヲ

證ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船長ニモ之ヲ送達ス可シ差押ハ其命令書ヲ

船長ニ送達シ又ハ債務者ニ送達スルニ因リテ爲サレタルモノト看

做サル

第八百二十六條 裁判所ハ差押命令ヲ發スルト同時ニ執達吏ヲ命シ

テ差押記入ヲ爲サシノ且船舶ノ股分及ヒ船舶ニ付キ記入簿ニ記入

セラレタル債權者ノ表ヲ作ラシム可シ

第八百二十七條 船舶股分競賣ハ此カ爲ノ債權者ノ特別ナル申立ヲ

要セスシテ裁判所ヨリ執達吏ニ之ヲ委任ス可シ

第八百二十八條 若シ船舶ノ股分又ハ船舶ニ付キ差押債權者ノ質權

ノ外ナル他ノ質權ノ存在スル事カ執達吏ノ報告ニ因リテ顯ハレタ

ル時ハ競賣代金ヲ裁判所書記ニ預クル事ヲ命ス可シ

此場合ニ於テハ競賣代金ノ分配ハ第七百十四條以下ノ規定ヲ準用

シ記入簿ニ記入セラレタル債權者ヲ立會ハシメテ之ヲ爲ス

日本學報編輯會

記入簿ニ記入セラレタル債權者ニ對シテハ第七百十五條ノ規定ニ從ヒテ其債權額ノ計數書ノ差出ヲ催告ス可シ若シ之ヲ差出サ、ル時ハ債權ノ元金及ヒ利息、差押債權者ノ債權額及ヒ訴訟費用并ニ強制執行ノ費用ヲ記簿ノ包有事項ニ從ヒテ分配案ニ據ク可シ
他ノ質權者ハ第六百五十二條ノ規定ニ從ヒテ賣却代金ニ付キ其請求ヲ訴追ス可シ又其差押ヲ通知ス可キ債務者ノ義務ニ付テハ第六百五十六條ノ規定ヲ準用ス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ノ爲メノ強制執行

第八百二十九條 執行セラル可キ債務名義カ金錢ノ支拂ヲ以テ目的トセサル時ハ強制執行ハ第八百三十一條以下ノ規定ヲ留保シ金錢ニ算定ス可キ利益ヲ債權者ニ支拂フ事ヲ債務者ニ強要スルヲ以テノミ之ヲ爲ス事ヲ得
第八百三十條 執行セラル可キ債務名義ニ於テ其利益カ金錢ニ算定

セラレサル時ハ債權者ハ其算定ノ爲メ債務者ニ對シ特別ノ訴ヲ起ス事ヲ得

其訴ニ付テハ訴訟カ第一審ニ於テ繫屬セシ裁判所之ヲ管轄ス然レ共其裁判所カ區裁判所ニシテ且新ナル訴ノ目的物カ區裁判所ノ權限ヲ超ユル時ハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

其發セラレタル判決ノ執行ハ金錢ノ債權ノ爲メノ強制執行ニ關スル成規ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第八百三十一條 債務者カ定マリタル動產ヲ引渡シ又ハ定マリタル動產ノ數量ヲ引渡ス可キ時ハ執達吏ハ債務者ノ方ニ於テ其動產ヲ搜出シ之ヲ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ
執行カ代補物ノ定量ノ給付ニ關スル時モ亦同シ

第八百三十二條 動產ヲ取上ケタル時ハ成ル可ク速カニ債權者ニ引

之ヲ

日本學振興會
編輯部
發行所
東京市
本町
二丁目
一丁目
一丁目

渡ス可シ

若シ取上ノ後即時ニ引渡ヲ爲ス能ハサル時ハ債權者ノ指圖アルマ
テ差押物ニ關シ定ノラレタルト同一ノ方法ヲ以テ其動產ヲ保管ニ
付ス可シ

第八百三十三條 執行行爲ニ付キ作ル可キ圖書ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ
掲ク可シ

第一 債務者ヨリ取上ケタル物ノ詳細ナル記載

第二 債權者ニ引渡ヲ爲シタル事又ハ如何ナル理由ニ因リ之ヲ爲
サリシ事及ヒ引渡ヲ爲サ、リシ場合ニ於テ如何ナル方法ヲ以テ
其物ヲ保存スルヤノ明示

執達吏ハ物ノ引渡ニ付キ債權者ヨリ領收證書ヲ取ル可シ但其證書
ハ圖書ニ之ヲ添フ

第八百三十四條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ、

委付シ又ハ明渡ス可キ時ハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ
其占有ヲ得セシム

強制執行ハ債權者又ハ其代人カ受取ノ爲メ出頭シタル時ニ限り之
ヲ爲ス事ヲ得

執行力アル正本ニ附屬物及ヒ器具ヲモ掲ケタル時ハ執達吏ハ此等
ノ物ヲモ亦債權者ニ引渡ス事ヲ要ス

第八百三十五條 強制執行ノ目的物ニ非サル動產ハ執達吏之ヲ取除
キテ債務者ヲ引渡ス可シ若シ債務者不在ナル時ハ其代人又ハ債務
者ノ家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナル時ハ差押物ニ關シ定メタル
ト同一ノ方法ヲ以テ右ノ動產ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ
債務者カ其動產受取ノ請求ヲ怠ル時ハ執達吏ハ報告ヲ爲シテ其動
產ノ賣却ヲ執行裁判所ニ申立テ其申立カ認許セラレタル時ハ差物

ノ競賣ニ關スル成規ニ從ヒテ賣却ヲ爲ス可シ其賣却ハ費用ヲ扣除シタル後戶長、郡長又ハ區長ニ之ヲ預ク可シ

第八百三十六條 執行行爲ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ條件ヲ揭ク可シ

第一 引渡シ、委付シ又ハ明渡シタル物及ヒ之ト共ニ債權者ニ引渡シタル附屬物并ニ器具ノ詳細ナル記載

第二 債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメタル事ノ明示

第三 債務者ニ屬スル物カ保管ニ付セラレタル時ハ保管ノ理由、物ノ表示及ヒ其物ノ送致ニ付キ如何ニ處分シタルヤ又ハ如何ニ處分ス可キヤノ明示

第八百三十七條 債務者ノ處分ニ屬スル物ニ付キ修繕ヲ爲ス可キ時ハ執達吏ハ適當ナル第三者ヲシテ必要ノ行爲ヲ爲サシメ及ヒ此カ

爲ノ生シタル費用ヲ差押ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ヨリ取立テ、其執行ヲ爲ス

第八百三十八條 執行行爲ニ付キ作ル可キ調書ニハ殊ニ左ノ條件ヲ揭ク可シ

第一 爲ス可キ修繕ノ表示

第二 氏名、身分、職業、住所ヲ以テ表示ス可キ第三者カ必要ナル行爲ヲ爲シ又ハ爲ス可キ事及ヒ其方法ノ明示

第三 生シタル費用ノ計算

若シ計算ヲ即時ニ爲ス事ヲ得サル時ハ後日調書ニ之ヲ添附ス可シ

第八百三十九條 債務者カ行爲ヲ爲ス可カラサル時ハ第一審ノ受審裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ違背ノ各場合ニ付キ五十圓以下ノ過料ヲ罰渡ス可シ

其裁判ハ豫メノ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊シタル後又適當ト

スル場合ニ於テハ其主張セラレタル遺言ヲ探知シタル後之ヲ爲スル
義務ニ戻リテ行爲ヲ爲シタル債務者ニ對シ第八百二十九條及ヒ第
八百三十條ノ規定ニ從ヒ利益ノ辨償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ右ノ
規定ニ因リテ妨ケラレス

第八百四十條 過料曹渡ニ拘ハラス執達吏ハ債權者ノ正當ナル設備
又ハ行爲ニ對スル債務者ノ抵抗ヲ債權者ノ申立ニ因リテ除去ス可
シ

第八百四十一條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ懸諾ス可キ事又ハ其他
ノ意思陳述ヲ爲ス可キ事ヲ曹渡サレタル時ハ其曹渡ノ確定ト爲レ
ル事ノ證ヲ記シタル判決書ノ正本ヲ以テ其意思陳述ニ代用ス

獨逸訴訟法中第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

第五百五十五條 定マリタル金額ノ支拂又ハ其他ノ代補物若クハ有價證券ノ定マリタル數量ノ給付ヲ目的トスル請求ハ其請求ヲ起スノ理由タル總テ必要ノ事實ヲ證書ニ依リ證スル事ヲ得ヘキ時ハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スル事ヲ得

第五百五十六條 訴狀ニハ證書訴訟ヲ以テ訴フルノ陳述ヲ掲ケタル事ヲ要ス其證書ノ原本又ハ謄本ハ訴狀ニ之ヲ添フル事ヲ要ス

第五百五十七條 本事件ノ辯論ハ妨訴ノ抗辯ニ基キ之ヲ拒ム事ヲ得ス然レ共裁判所ハ職權ヲ以テモ此抗辯ニ付キ分斷シテ爲ス可キ辯論ヲ命スル事ヲ得

第五百五十八條 反訴ハ之ヲ許サス

證書ノ眞否及ヒ第五百五十五條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關シテハ證書及ヒ宣誓要求ノミヲ以テ適法ノ舉證方法ト爲ス

書證ノ申出ハ證據ノ提出ヲ以テノミ之ヲ爲ス事ヲ得

宣誓ヲ爲ス事ハ證據決定ヲ以テ之ヲ命ス可シ

第五百五十九條 原告ハ被告ノ承諾ヲ要スル無クシテ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ通常ノ手續ヲ以テ争訟ヲ變遷セシメテ證書訴訟ヲ止ムル事ヲ得

第五百六十條 訴ヲ以テ主張セラレタル請求其モノカ理由ナシト見エ又ハ其請求カ被告ノ抗辯ノ爲メ理由ナシト見ユル時ハ原告ノ請求ヲ却下ス可シ

證書訴訟ヲ許ス可カラサル時殊ニ原告ノ義務タル證據カ證書訴訟ニ於テ適法ナル舉證方法ヲ以テ申出テラレス又ハ適法ナル舉證方法ヲ以テ完全ニ舉ケラレヌサル時ハ此擧マレタル種類ノ訴訟ニ於テハ其訴ヲ許サ、ルモノトシテ却下ス但口頭辯論ノ期日ニ被告カ出頭セス又ハ法律上理由ナキ異議若クハ證書訴訟ニ於テ許サレサ

ル異議ニ基キテノミ訴ニ對シ不同意ヲ述ヘタル時ト雖モ亦同シ

第五百六十一條 被告ノ義務タル異議ノ證據カ證書訴訟ニ於テ適法ナル舉證方法ヲ以テ申出テラレス又ハ適法ナル舉證方法ヲ以テ完全ニ舉ケラレサル時ハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許サレサルモノトシテ之ヲ却下ス可シ

第五百六十二條 主張セラレタル請求ニ對シ不同意ヲ述ヘタル被告ハ敗訴ノ旨渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ於テ其權利ノ行用ヲ留保セラル可シ

判決ニ留保ヲ包含セサル時ハ第二百九十二條ノ成規ニ依リテ判決ノ補充ヲ申立ツル事ヲ得
權利ノ留保ヲ以テ發セラレタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ關シテハ之ヲ終局判決ト看做ス可シ

第五百六十三條 權利ノ行用力被告ニ留保セラレタル時ハ争訟ハ通

常ノ手續ニ於テ廢止ス

其手續ニ於テ訴ヲ以テ主張セラレタル請求ノ理由ナカリシ事ノ顯
ハル、時ハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ其生セシメタル費
用ノ全部又ハ一分ノ辨償ヲ原告ニ負擔シ又前判決ニ基キ被告ヨリ
支拂ヒタルモノ又ハ給付シタルモノ、辨償ヲ申立ニ因リテ原告ニ
負擔ス可シ

其手續ニ於テ原告又ハ被告カ出頭セサル時ハ調席判決ニ關スル成
規ヲ準用ス

第五百六十四條 第五百二條及ヒ第五百三條ノ成規ハ證書訴訟ニ之
ヲ適用セス

第五百六十五條 爲替條例ノ意義ニ於ケル爲替證券ニ因ル請求カ證
書訴訟ヲ以テ主張セラレタル時（爲替訴訟）ハ下ノ特別成規ヲ適
用ス

第五百六十六條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判
所ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起ス事ヲ得

數名ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヘラレタル時ハ支拂地ノ裁判所ノ
外被告ノ一人カ其普通裁判所ヲ有スル地ノ各裁判所其管轄ヲ有ス

第五百六十七條 訴狀ニハ爲替訴訟ヲ以テ訴フルノ陳述ヲ掲クル事
ヲ要ス

訴狀カ裁判所ノ所在地ニ於テ送達セラル、時ハ應訴期間ハ少ナク
共二十四時間トシ又裁判所ノ管轄區内ノ其他ノ地ニ送達セラル、
時ハ少ナク共三日トシ又關乙國內ノ其他ノ地ニ送達セラル、時ハ
少ナク共一週日間トス

第八百二十三條 請求權又ハ權利ヲ届出テシムル爲メノ公ノ裁判上
催告ハ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲ス事ヲ得但届出チ爲サ
ル時ハ其催告ハ失權ニ至ラシムルノ効力ヲ生ス

公示催告手續ニ付テハ法律ニ定メタル裁判所之ヲ管轄ス

第八百二十四條 申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ裁判所書記ノ調査
ニ口述シテ之ヲ爲ス事ヲ得其裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之
爲ス事ヲ得

申立カ許サル可キ時ハ裁判所ハ公示催告ヲ發ス可シ其公示催告ニ
ハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求權及ヒ權利ヲ濫ク共公示催告期日ニ届出ツ可キ事ノ催
告

第三 届出チ爲サ、ル時ニ生スル失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第八百二十五條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所掲示板ニ掲示シ及
ヒ獨乙帝國官報ニ掲載シテ之ヲ爲シ其他法律カ各箇ノ場合ニ付キ
別段ノ規定ヲ設ケサル時ハ第八十七條ニ於テ呼出ノ爲メ定メタ
ル成規ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第八百二十六條 掲示ス可キ書類ヲ掲示ノ場所ヨリ取除ク事ノ早キ
ニ過キ又ハ再度公告ノ場合ニ於テ成規ノ中間期間ヲ遵守セサル時
ト雖モ公告ノ効力ニ影響ヲ及ホサス

第八百二十七條 公示催告ヲ獨乙帝國官報ニ掲載シ又ハ最初ニ掲載
シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサル
時ハ少ナク共六週日間ノ時間アル事ヲ要ス

第八百二十八條 公示催告期日ノ終結ノ後ト雖モ除斥判決ヲ發スル
前ニ爲シタル届出ハ適當ナル時間ニ爲シタルモノト看做サル可シ

第八百二十九條 除斥判決ハ申立ニ因リ公ノ懸延ニ於テ之ヲ發ス可シ

其判決ヲ發スル前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス事ヲ命シ殊ニ申立人ノ主張ノ正實ナル事ヲ宣誓ヲ以テ保證セシムルヲ命スル事ヲ得

除斥判決ヲ發スル事ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除斥判決ニ加ヘタル制限并ニ留保ニ對シテハ即時ノ抗告ヲ爲ス事ヲ得

第八百三十條 申立ヲ爲スノ理由トシテ申立人ノ主張シタル權利ヲ爭フ届出力爲サレタル時ハ其場合ノ情況ニ從ヒ或ハ届出タル權利ニ付テノ確定裁判マテ公示催告手續ヲ中止シ或ハ除斥判決ヲ以テ届出タル權利ヲ留保ス可シ

第八百三十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セサル時ハ其申立ニ因リテ新ナル期日ヲ定ム可シ其申立ハ公示催告期日ヨリ起算ス可キ六個月ノ期間内ニ非サレハ之ヲ爲ス事ヲ許サス

第八百三十二條 公示催告手續ノ完結ノ爲メ新ナル期日カ定メラレタル時ハ期日ノ公告ヲ爲ス事ヲ要セス

第八百三十三條 裁判所ハ除斥判決ノ重要ナル包有事項ヲ獨乙帝國官報ニ一回掲載シテ公告スルヲ命スル事ヲ得

第八百三十四條 除斥判決ニ對シテハ上訴ヲ爲ス事ヲ得ス

除斥判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對シ起ス可キ訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツル事ヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合カ存セサル時

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サ、ル時

第三 成規ノ公示催告期間カ遵守セラレサル時

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヲ除斥セラレタル

時

第五 請求權又ハ權利カ其爲サレタル届出ニ拘ハラズ判決ニ於テ法律ニ從ヒ願ミラレサル時

第六 願セラルル可キ行爲ノ爲メ回復ノ訴ヲ爲ス事ヲ得ル條件カ存スル時

第八百三十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不可變期間内ニ之ヲ起ス可シ其期間ハ原告カ除斥判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル可シ然レ共訴カ第八百三十四條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ且其理由カ右ノ日ニ未タ原告ニ知レサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由カ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル可シ除斥判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ十年ノ滿了シタル後ハ其訴ヲ許サス

第八百三十六條 裁判所ハ第八百三十八條ノ條件ノ存在セサル時ト雖

モ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ發スル事ヲ得

第八百三十七條 紛失シ又ハ滅失シタル爲替證券及ヒ商法第三百一條并ニ第三百二條ニ掲ケタル證券ノ無効宣言ノ爲メノ公示催告手續ニ付テハ下ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス他ノ證券ニハ法律ニ別段ノ成規ヲ設ケサル時ニ限り之ヲ適用ス

第八百三十八條 所持人式ノ證券又ハ裏書ヲ以テ轉付スル事ヲ得ヘク且白地裏書ヲ備タル證券ニ付テハ最後ノ所持人ハ公示催告手續ヲ申立ツルノ權利アリ

其他ノ證券ニ付テハ證券ニ因レル權利ヲ主張スル事ヲ得ヘキ者ハ申立ヲ爲スノ權利アリ

第八百三十九條 公示催告手續ニ付テハ證券ニ履行地トシテ表示セラレタル地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證券ニ其表示ヲ掲ケサル時ハ

日本學術叢書

發行人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナ
キ時ハ發行人カ發行ノ當時其普通ノ裁判籍ヲ有シタル地ノ裁判所
之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スルノ原因タル請求權カ地所帳又抵當簿ニ記入セラレ
タル時ハ其物ノ所在地ノ裁判所ハ專屬管轄ヲ有ス

目録
第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章
第九章
第十章
第十一章
第十二章
第十三章
第十四章
第十五章
第十六章
第十七章
第十八章
第十九章
第二十章
第二十一章
第二十二章
第二十三章
第二十四章
第二十五章
第二十六章
第二十七章
第二十八章
第二十九章
第三十章
第三十一章
第三十二章
第三十三章
第三十四章
第三十五章
第三十六章
第三十七章
第三十八章
第三十九章
第四十章
第四十一章
第四十二章
第四十三章
第四十四章
第四十五章
第四十六章
第四十七章
第四十八章
第四十九章
第五十章

第四章 假差押及ヒ假處分

第八百四十二條 金銀ノ債權又ハ其他原目的物ヲ金銀ノ債權ニ換フル事ヲ得ヘキ請求權ノ保存ノ爲メノ假差押ハ左ノ場合ニ於テハ保存セラル可キ請求權ニ付キ爭訟ヲ開始スル前ニテモ又爭訟中ニテモ之ヲ爲ス事ヲ得

第一 債務者カ其財産ヲ浪費スル事ヲ始メ又ハ其財産ヲ隠匿シ若クハ隠ハシキ方法ヲ以テ之ヲ移付スルノ設備ヲ爲ス時

第二 債務者カ逃走シ又ハ逃走スルノ恐アル時

第三 質借人カ質借契約ヨリ生スル義務ヲ履行セスシテ質借物中ニ存スル物ヲ持去ラントスル時

第四 判決ヲ外國ニ於テ執行ス可キ時

第五 其他債務者ノ財産ニ對スル判決ノ執行ヲ爲ス事能ハス又ハ之ヲ爲ス事ノ著シク困難ナルニ至ルノ恐アル時

第八百四十三條 未タ期限ニ至ラサル請求權ノ爲ノニハ急迫ナル危險ノ場合ニ限り保證ヲ立テシメテ假差押ヲ爲ス事ヲ得又條件附請求權ニ付テハ債權者カ條件ノ未成ナル間ニ保證ヲ立ツル事ヲ求ムルノ權利アル時ニ限り假差押ヲ爲ス事ヲ得

第八百四十四條 假差押ヲ命スルニ付テハ訴訟ノ開始前ニ在テハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ管轄シ又訴訟中ニ在テハ本事件ノ裁判所之ヲ管轄ス然レ共本事件カ大審院ニ屬スル時ハ第一審ノ受訴裁判所之ヲ管轄ス

急迫ナル危險ノ場合ニ於テハ本事件ニ付キ訴訟ハ開始後ト雖モ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ假差押ノ申請ヲ提出スル事ヲ得

第八百四十五條 假差押ノ申請及ヒ其他假差押ニ關スル開流ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

第八百四十六條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ包含スル事ヲ要ス

第一 保存セラル可キ請求權ノ表示及ヒ其請求權カ定マリタル金額ヨリ成ラサル時ハ其價額ノ明示

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表明

第三 假ニ差押フ可キ物ノ明示

第四 假差押ノ命アラン事ノ申立

請求權及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

第八百四十七條 假差押ハ急迫ナル場合ニ於テハ何時タリ共又日曜日及ヒ普通ノ祝祭日ニ於テモ之ヲ申立テ及ヒ命スル事ヲ得

第八百四十八條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ豫メ債務者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ之ヲ爲ス但急迫ナル場合ニ於テハ裁判長ヨリ假差押ヲ命スル事ヲ得

假差押ノ申請カ口頭辯論ニ際シ相手方ノ面前ニ於テ爲サレタル時

ハ裁判ノ前ニ相手方ヲ審訊スル事ヲ得

第八百四十九條 假差押ノ申請カ理由アリト見ユル時ハ假差押ハ命令書ヲ以テ之ヲ命ス可シ

其命令書ニハ左ノ諸件ヲ掲ク

第一 債權者ノ請求權ノ表示及ヒ假差押命令ノ費用ノ明示

第二 債權者ノ請求權ノ爲メ及ヒ費用ノ爲メ債務者ニ對シテ假差押ヲ命スル事ノ旨渡

第三 假ニ差押フ可キ物ノ明示

第四 假差押ノ執行ヲ止メ又ハ執行セラレタル假差押ノ廢止ヲ申立ツルノ權利ヲ得ル爲メ債務者ヨリ裁判所書記ニ供託ス可キ金額ノ確定

前記ノ金額ハ之^{債權者ノ}以テ請求權及ヒ假差押命令ノ費用ヲ全ク償フ事ヲ得ル價ニ之ヲ定ム可シ若シ其請求權カ定マリタル金額ヨリ成

額ノ確定

ラサル時ハ裁判所ハ假差押ノ申請ニ包含シタル價額ノ明示ニ拘束セラレスシテ其意見ヲ以テ供託ス可キ金額ヲ定ム可シ

第八百五十條 請求權又ハ假差押ノ理由カ全ク疎明セラレス又ハ十分ニ疎明セラレサル時ト雖モ債權者カ假差押ニ因リテ債務者ニ生

セシム可キ損害ノ爲メ裁判所ノ意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ豫メ立テタル時ハ裁判所ハ假差押ヲ命スル事ヲ得

又裁判所ハ請求權及ヒ假差押ノ理由カ疎明セラレタルトキト雖モ假差押ノ命ヲ右ノ如ク豫メ保證ヲ立ツル事ニ懸カラシムル事ヲ得

保證カ立テラレタル時ハ其保證ヲ立テタル事及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルヤチ假差押ノ命令書ニ記載ス可シ

第八百五十一條 假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ豫メ保證ヲ立テシムル命令ハ債務者ニ之ヲ通知スル事ヲ要セス

其命令ニ對シテハ抗告ヲ爲ス事ヲ得其抗告ニ付テハ抗告裁判所

ハ他ノ債務者ヲ審訊セスシテ裁判ス可シ

却下セラレタル假差押ノ申請ハ何時ニテモ再ヒ之ヲ提出スル事ヲ得

第八百五十二條 假差押ノ命ニ對シテハ上訴ヲ爲ス事ヲ得ス然レ共債務者ハ期間ニ拘束セラレサル異議ヲ假差押ヲ命シタル裁判所ニ申立ツルノ權利アリ

其異議ニ付テハ假差押ノ廢止又ハ變更ヲ申立ツルノ理由ヲ明示ス可シ

假差押ノ執行ハ異議ノ申立ニ因リテ妨ケラレス

第八百五十三條 異議カ申立テラレタル時ハ他ノ豫備手續ヲ要セスシテ假差押ノ當否ニ關スル口頭辯論ノ爲メ原告被告ノ雙方ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ假差押ノ認可、變更又ハ廢止ニ付キ判決ヲ以テ裁判ス又

裁判所ハ此各處分ヲ其意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立ツル事ニ要カラシムル事ヲ得

右ノ裁判及ヒ其効力ハ假差押ノ當否ノ點ニ止マル可シ

第八百五十四條 債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル時ハ出頭シタル債務者ノ申立ニ因リ關席判決ヲ以テ假差押ヲ廢止ス

債務者カ出頭セサル時ハ出頭シタル債權者ノ申立ニ因リ關席判決ヲ以テ假差押ヲ認可ス

第八百五十五條 其裁判ニ對シテハ普通ノ例規ニ從ヒテ上訴ヲ爲シ又關席判決ニ對シテハ故贖ヲ爲ス事ヲ得

第八百五十六條 本事件カ未タ審議セサル時ハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ訴ノ提起ノ爲メ相當ノ期間ヲ債權者ニ定ム可シ期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ前數條ニ定メタル手續ニ依リ判決ヲ以テ假差押ヲ廢止ス可シ

第八百五十七條 債務者ハ假差押ノ理由ヲ除去シ又ハ其他情況ノ變
更シタル時又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントスル
ノ提供ヲ爲シタル時ハ異議ノ申立ニ因リテ假差押カ認可セラレタ
ル後ト雖モ何時ニ限ラス假差押ノ廢止ヲ申立ツル事ヲ得
其申立ニ債權者ノ承諾書ヲ添ヘサル時ハ假差押ヲ命シタル裁判所
ハ第八百五十三條乃至第八百五十五條ニ定ノタル手續ヲ以テ裁判
ヲ爲ス然レ共本事件カ既ニ變遷シタル時ハ本事件ノ裁判所ハ其手
續ヲ以テ裁判ヲ爲ス

本事件ノ裁判所ハ債權者ニ對シテ判決ヲ發スル時ハ債務者ノ申立
ニ因リテ假差押ノ廢止ヲモ言渡ス事ヲ得

第八百五十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル處想ヲ準
用ス但下ノ數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス
第八百五十九條 假差押ノ執行ハ假差押命令書ノ正本ニ基キテ之ヲ

爲ス但其命令書ニハ假差押ノ命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ノ
變更シタル時ニ限り特別ノ執行命令ヲ追記スル事ヲ要ス

第八百六十條 假差押命令ハ其發セラレタル後一个月内ニ假差押ノ
執行ヲ爲サ、ル時ハ其効力ヲ失フ

第八百六十一條 債權者ヨリ假差押ノ執行ヲ委任セラレタル執達吏
ハ最初ノ執行行爲ニ際シ署名捺印ヲ以テ認證シタル假差押命令書ノ
謄本ヲ債務者ニ交付シ其交付シタル事ヲ執行行爲ニ付キ作ル可キ
證書ニ附記シ又不在席ノ債務者ニハ調書ノ謄本ト共ニ假差押命令
書ノ謄本ヲモ送達ス可シ

假差押ノ執行カ裁判上ノ命令ヲ以テ爲サレタルトキハ其命令書ノ
謄本ト共ニ假差押命令書ノ正本ヲモ債務者ニ送達ス可シ
適當トスル場合ニ於テハ假差押命令ハ假差押執行ノ爲ノ發セラル
可キ裁判上ノ命令ト併合スル事ヲ得

第八百六十二條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ差押ニ因リテ之ヲ爲

ス其差押ハ他ノ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權者ハ差押ニ因リ第六百五十一條ニ定メタル効力ヲ以テ質權ヲ

得取ス

執達吏ハ差押ヘタル現金ヲ債權者ニ渡サスシテ戶長、郡長又ハ區

長ニ預ク可シ

其他ノ差押ヘタル物ノ競賣及ヒ差押ヘタル有價證券ノ換價ハ一時

之ヲ止ム然レ共差押ヘタル物力著シキ價額減少ヲ受クルノ恐アル

時又ハ其貯藏ニ付キ不相應ノ費用ヲ生ス可キ時ハ執行裁判所ハ債

權者若クハ債務者申立ニ因リ又ハ執達吏ノ報告ニ依リテ其物ヲ競

賣シ其賣得金ヲ戶長、郡長又ハ區長ニ預クルヲ命スル事ヲ得

同一ノ物ヲ數名ノ債權者ノ爲メ同時ニ差押ヘ又ハ附隨差押ノ方法

ヲ以テ差押ヘタル場合ニ於テ其債權者中ノ一名カ假差押債權者ナ

ルトキハ競賣ヲ爲ス執達吏ハ假差押債權者ニ配當セラル可キ金額

ヲ戶長、郡長又ハ區長ニ預ク可シ但計算ニ對スル關係債權者ノ一

名ノ異議ノ爲メ賣得金ノ金額ヲ裁判所ニ差出ス事ヲ要スルトキハ

此限ニ在ラス

第八百六十三條 債權ノ差押ニ付テハ假差押裁判所ハ執行裁判所ト

シテ之ヲ管轄ス

其差押ハ第三項ノ規定ヲ留保シ他ノ各債權ノ差押ト同一ノ原則ニ

從ヒテ之ヲ爲ス但債權者ハ其差押ニ因リ第六百九十六條ニ定メタ

ル効力ヲ以テ質權ヲ得取ス

差押命令書ニ於テハ第六百九十五條第四號ニ定メタル催告ニ代ヘ

債務者ニ對スル支拂又ハ引渡ノ禁止ノミヲ第三債務者ニ發ス可シ

但債權者債權者ニ履行スル事ハ一時之ヲ止ム

第八百六十四條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ債權者ノ債權ノ爲

ノ假差押ヲ爲シタル事ヲ記入簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス債權者ハ假差押ノ記入ニ因リテ不動産ニ付キ管轄ヲ得取ス然レ共債權者ハ債務者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ此管轄ヲ處分スルノ權利ナシ
記入ヲ命スル事ニ付テハ第七百三十條ニ掲ケタル區裁判所カ執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス
執行裁判所ハ記入ヲ爲サシムル爲メ記入簿ヲ取扱フ役所ニ必要ナル指圖書ヲ發シテ之ヲ執達更ニ交付シ執達更ハ之ヲ其役所ニ提出シテ假差押ノ記入ヲ囑託ス可シ

第八百六十五條 不動産ノ收入ニ對スル假差押ノ執行ハ強制管理ヲ以テ之ヲ爲ス

第八百六十六條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ有體不動産ノ差押ニ關スル成規及ヒ第八百六十五條ノ規定ニ從ヒ差押ヲ以テ之ヲ爲ス
第八百六十七條 裁判上ノ分配手續ニ於テ金額カ假差押債權者ニ配

當セラルトキハ其金額ヲ押渡サスシテ保管ニ付ス可シ

第八百六十八條 執行裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ執行セラレタル假差押ヲ債務者ノ申立ニ因リテ直チニ廢止ス可シ

第一 債務者カ假差押命令ニ於テ定メラレタル金額ヲ預ケタル時又ハ申立テタル異議ノ爲メ許サレタル他ノ保證ヲ立テタル時

第二 債權者カ申立テラレタル異議ノ爲メ命セラレタル保證又ハ増保證ヲ此カ爲メ定メタル期間ニ立テサリシ時

假差押ノ繼續ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且債權者カ費用ノ金額ヲ立替ヘサル時ニ於テモ亦執行裁判所ヨリ假差押ノ廢止ヲ命スル事ヲ得

第八百六十九條 假處分ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ許ス

第一 争訟物其モノニ關シテハ金錢ノ債權又ハ其他ノ請求權ノ價額ニ非スシテ定マリタル人ニ關スル行爲又ハ定マリタル物若ク

ハ定マリタル財産權ニ關スル給付ノ實施ヲ保全ス可キトキニ於テ假處分ヲ爲サレハ現狀ノ變更スル爲メ判決ヲ執行スル能ハサルニ至リ又ハ著シク其執行ヲ困難ナラシムルノ恐アル場合

第二 争アル權利關係ニ關シテハ著シキ損害ヲ恐クル爲メ又ハ將來ニ受ケントスル脅迫行爲ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ノ爲メ一時ノ標準ト爲ル現狀ヲ設クル事ノ必要ト見ユル場合

第八百七十條 假處分ヲ爲ス事及ヒ其他ノ手續ニ付テハ假差押ヲ命スル事及ヒ假差押ノ手續ニ關スル成規ヲ準用ス但下ノ數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第八百七十一條 假處分ヲ爲ス事ニ付テハ本事件ノ裁判所之ヲ管轄ス
急迫ナル場合ニ於テハ本事件カ既ニ繫屬ト爲リタルト否トヲ問ハス争訟物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所モ亦假處分ヲ爲ス事ヲ得

若シ區裁判所カ此權利ヲ行用セントスル時ハ本事件ヲ管轄スル裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲メ相當ノ期間ヲモ定ム可シ其期間ヲ徒過シタル後ハ其假處分ヲ甲立ニ因リテ廢止ス可シ

第八百七十二條 裁判所ハ目的ヲ達スル爲メ如何ナル處分ヲ爲ス可キヤヲ其意見ヲ以テ定ム

假處分ハ亦争訟物ノ強制管理ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ特定ノ第三者ヲシテ看守及ヒ保管ヲ爲サシメ又ハ甲立人ノ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ若クハ給付ヲ命スル事ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

假處分ヲ以テ不動産ノ移付又ハ差押ヲ禁シタル時ハ裁判所ハ第八百六十四條ノ規定ヲ準用シテ地所帳又ハ記入簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第八百七十三條 假處分ノ目的ヲ誤マルノ恐ナキ時ハ其處分ヲ爲スノ前ニ相手方ヲシテ答辯書ヲ以テ又ハ口頭辯論ニ於テ申辯ニ付キ

陳辯ヲ爲ス事ヲ得セシム可シ

第八百七十四條 保證ヲ立テシノテ假處分ヲ廢止スル事ハ特別ノ情況アル時ニ限り之ヲ許ス可シ

民事ノ二一四

乙民事第四節 計算事件、精算及ヒ此ニ類スル訴訟ニ於ケル準備

手續

第三百十三條 若シ計算ノ正否、財産ノ精算又ハ此ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ニ於テ計算書又ハ財産目錄ニ對シ許多ノ爭アル請求權ノ生シ又ハ爭アル異議ノ生シタル時ハ受訴裁判所ハ受命判事ノ面前ニ於ケル準備手續ヲ命スル事ヲ得

第三百十四條 準備手續ヲ命スル決定ヲ言渡スニ際シ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ決定完結ノ期日ヲ定ム可シ若シ裁判長カ期日ヲ定メサル時ハ受命判事之ヲ定ム又受命判事カ其委任ヲ執行スル事ヲ妨ケラレタル時ハ裁判長他ノ判事ヲ任ス

第三百十五條 準備手續ニ於テハ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ニス可シ

第一 如何ナル請求力起サレタルヤ及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法

カ主張セラレタルヤ

第二 如何ナル請求及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法カ争ハレタルヤ
又ハ争ハレサルヤ

第三 争ハレタル請求及ヒ争ハレタル攻撃防禦ノ方法ニ付テハ其
事實上ノ關係及ヒ原告被告ノ表示シタル舉證方法、主張シタル
舉證抗辯、舉證方法并ニ舉證抗辯ニ關シテ爲シタル陳述及ヒ提
出シタル申立

其手續ハ争訟カ區裁判所ニ整備シタル時ニ適用ス可キ成規ニ從フ
又其手續ハ争訟又ハ中間争訟カ判決又ハ控證決定ヲ爲スニ熟シタ
リト見ユルマテ之ヲ繼續ス可シ

第三百十六條 原告又ハ被告カ期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セ
サル時ハ受命判事ハ出頭シタル原告又ハ被告ノ提供テ前條ノ規定
ニ依リ調書ヲ以テ明確ニシ且新ナル期日ヲ定ム可シ出頭セサル原

告又ハ被告ハ調書ノ贈本ヲ付與シテ新ナル期日ニ之ヲ呼出ス可シ
原告又ハ被告カ新ナル期日ニモ亦出頭セサル時ハ送達セラレタル
調書ニ掲ケタル相手方ノ事實上ノ主張ハ自認セラレタルモノト看
做シ其主張ニ付テノ準備手續ヲ更ニ繼續セス

第三百十七條 準備手續ノ終結シタル後受命裁判所ニ於ケル口頭辯
論ノ期日ヲ職權ヲ以テ定メ之ヲ原告被告ニ通知ス可シ

第三百十八條 原告被告ハ口頭辯論ニ際シ準備手續ノ結果ヲ調書ニ
基キ演述ス可シ

原告又ハ被告カ出頭セサル時ハ準備手續ニ於テ争ナキ事ノ顯ハレ
タル請求ハ一分判決ヲ以テ之ヲ完結ス可シ其他ニ付テハ申立ニ因
リテ副席判決ヲ發ス可シ

第三百十九條 事實、證據又ハ宣誓要求ニ付キ受命判事ノ面前ニ於
テ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ爲ス事ヲ拒ミタルトキハ口頭辯論ニ於テ

最早之ヲ追完スル事ヲ得ス受命判事ノ面前ニ出頭シタル原告又ハ被告ノ陳述ハ原告又ハ被告カ陳述ヲ爲ス事ヲ判事ヨリ催告セラレタル限度ニ於テノミ之ヲ爲サレサルモノト看做ス可シ
請求、攻撃防禦ノ方法、舉證方法及ヒ舉證抗辯ニシテ受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニセラレサルモノハ後日ニ至リ始メテ生シ又ハ後日ニ至リ始メテ原告若クハ被告ノ知りタル事ヲ證明スル時ニ限り口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スル事ヲ得

第八百四十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ諸件ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ原本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル包有事項及ヒ證書
ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ明示スル事

第二 證書ノ紛失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルヲ得ル理由タル事
實ヲ證明スル事

第三 其明示ノ真正ナル事ヲ宣誓ヲ以テ保證セント申述フル事

第八百四十一條 公示催告ニハ證書ノ所持人ハ遅ク共公示催告期日
ニ其權利ヲ裁判所ニ届出テ且證書ヲ提出ス可キ事ヲ其所持人ニ催
告ス可シ但失權トシテ證書ノ無効曾渡ヲ爲ス可キ事ヲ戒示ス可シ
第八百四十二條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所掲示板ニ掲示シ及

ヒ催告裁判所ノ所在地ニ取引所アル時ハ取引所ニ掲示シ并ニ第百
八十七條第二項ニ掲ケタル新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス
裁判所ハ尙ホ他ノ新聞紙ニ數回掲載ス可キヲ命スル事ヲ得

第八百四十三條 時々ニ利息票又ハ利益配當票ヲ發行スル有價證券ニ付テハ公示催告期日ハ其紛失ヲ證明セラレタル以來發行シタル第一回ノ利息票又ハ利益配當票カ支拂期限ニ至リ且其支拂期限ヨリ右期日マテニ六個月ノ経過スル様ニ之ヲ定ム可シ
除斥判決ヲ發スルノ前申立人ハ紛失ヲ證明シタル以來新票ヲ發行セシムル爲ノ證書ヲ其關係アル官廳、金庫又ハ建設所ニ提出セシ者アラサル事及ヒ申立人外ノ者ニ新票ノ交付セサリシ事ニ付キ右六個月ノ期間滿了後發付シタル其官廳、金庫又ハ建設所ノ證明書ヲ提出ス可シ

第八百四十四條 利息票又ハ利益配當票ヲ四ヶ年ヨリ長キ時間ノ爲ノ最後ニ發行シタル有價證券ニ付テハ公示催告期日ハ其紛失ヲ證明セラレタル以來最後ニ發行シタル四ヶ年分ノ票カ支拂期限ニ至リ且其票ノ最後ノモノハ支拂期限ヨリ右期日マテニ六個月ノ経過

スル様ニ之ヲ定ムルヲ以テ足レリトス但利息又ハ配當利益ヲ支拂ハサル時間ニ對スル票ハ右期日ヲ定ムルニ付キ之ヲ顧ミス
除斥判決ヲ發スルノ前申立人ハ前項ニ掲ケタル四ヶ年間及ヒ其後ニ支拂期限ニ至リタル票ヲ申立人外ノ者ヨリ其關係アル官廳、金庫又ハ建設所ニ提出セサリシ事ニ付キ右六個月ノ期間滿了後ニ發付シタル其官廳、金庫又ハ建設所ノ證明書ヲ提出ス可シ若シ公示催告ヲ發シタル後ニ新票ヲ發行シタルトキハ其證明書ニハ第八百四十三條第二項ニ掲ケタル明示ヲモ亦掲載スル事ヲ要ス
第八百四十五條 貸テ利息票又ハ利益配當票ヲ發行シタルモ最早之ヲ發行セサル有價證券ニ付テハ第八百四十三條及ヒ第八百四十四條ノ條件ノ存セサルトキハ公示催告期日ハ最後ニ發行セラレタル票ノ支拂期限ニ至リタル後右期日マテニ六個月ノ経過スル様ニ之ヲ定ム可シ

第四百四十六條 獨乙帝國官報ニ始メテ公示催告ヲ掲載シタル時未
タ到來セサル支拂時日ヲ債務證書ニ明示シ且第四百四十三條乃至
第四百四十五條ノ條件カ存セサル時ハ公示催告期日ハ支拂時日以
來六個月ノ經過スル儘ニ之ヲ定ム可シ

第四百四十七條 獨乙帝國官報ニ始メテ公示催告ヲ掲載シタル日ト
公示催告期日トノ間ニハ少ナク共六個月ノ時間アル事ヲ要ス

第四百四十八條 除斥判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除斥判決ノ重要ナル包有事項ハ獨乙帝國官報ヲ以テ之ヲ公告ス可
シ

不服申立ノ訴ニ因リ發セラレタル判決ヲ以テ無効宣言ヲ廢止シタ
ル時ハ其判決ノ確定ト爲リタル後右ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告
ス可シ

第四百四十九條 第四百四十三條乃至第四百四十八條ノ成規ハ其他

民訴草ノ二一八

第四百三十七條第一項ニ掲ケタル證書ニシテ所持人式ニ非サルモ
ノ又ハ裏書ヲ以テ轉付スル事ヲ得且白地裏書ヲ備フル證書ノ公示
催告ニモ亦之ヲ適用ス但證書發行ノ原因タル請求權カ地所帳又ハ
抵當簿ニ記入セラレサル時ニ限ル

公示催告手續ノ爲メ尙ホ他ノ條件又ハ更ニ嚴重ナル條件ヲ定ムル
成規ハ右ノ規定ニ因リテ變更ヲ受ケス

第四百五十條 除斥判決ヲ爲サシメタル者ハ證書ニ因レル義務ヲ負
ヒタル者ニ對シ證書ニ因レル權利ヲ主張スル事ヲ得

第六編 婚姻事件及ヒ禁治産事件

第一章 婚姻事件ノ訴訟手續

第五百六十八條 婚姻ノ解離、取消若クハ無効又ハ夫婦タル形状ノ回復ヲ目的トスル訴訟一婚姻事件一ニ付テハ夫カ其普通裁判權ヲ有スル地ノ地方裁判所其專屬管轄ヲ有ス

婦ヲ委棄シテ外國ニ於テノミ住所ヲ有スル夫ニ對シテハ其婦ハ乙國內ニ其夫カ最後ニ有セシ住所ノ地方裁判所ニ訴ヲ起ス事ヲ得但被告カ原告ヲ委棄セシ當時獨乙人タリシ時ニ限ル

第五百六十九條 檢察局ハ婚姻事件ニ參與スルノ權アリ

檢察ハ判決ヲ爲ス裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス辯論ニ立會フ事ヲ得檢察ニハ職權ヲ以テ總テノ期日ヲ通知ス可シ

檢察ハ發セラル可キ裁判ニ付キ意見ヲ述ヘ且婚姻ノ維持ニ關スル

限りハ新ナル事實及ヒ舉證方法ヲ提出スル事ヲ得

訟廷調書ニハ檢事ノ氏名ヲ明示シ又檢事ノ提出シタル申立ヲモ記載ス可シ

第五百七十條 裁判長ハ和解試ニ關スル下ノ數條ノ成規ヲ履行シタル時始メテ離婚ノ訴又ハ夫婦タル形狀ノ回復ノ訴ニ付キ口頭辯論ノ期日ヲ定ムル事ヲ得

第五百七十一條 原告ハ夫カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ニ和解期日ノ指定ヲ申立テ其期日ニ被告ヲ呼出ス可シ

時効ハ呼出狀ノ送達ニ因リテ中斷セラル

第五百七十二條 原告被告ハ和解期日ニ自ラ出頭スル事ヲ要ス輔佐人ハ之ヲ斥クル事ヲ得

和解期日ニ原告又ハ原告被告ノ雙方カ出頭セサル時ハ呼出ハ其効力ヲ失フ若シ原告ハ出頭シタル時被告カ出頭セサル時ハ和解試ハ

不調ナリト看做サル

第五百七十三條 被告ノ所在カ分明ナラス又ハ外國ニ在ル時又ハ其他和解試ニ對シ原告ノ過愆ニ出テサル除去シ難キ障礙アル時又ハ和解試ノ結果ナキ事ヲ確ニ豫見スル事ヲ得ヘキ時ハ和解試ヲ爲ス事ヲ要セス

右條件ノ存否ニ付テハ地方裁判所ノ裁判長豫メ被告ヲ審訊スル事無クシテ之ヲ裁判ス

第五百七十四條 判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結スルマテハ訴ニ於テ提出シタル以外ノ理由ヲ主張スル事ヲ得

新ナル提供及ヒ反訴ノ提起ハ和解試ニ關係セス

第五百七十五條 夫婦タル形狀回復ノ訴、離婚ノ訴及ヒ取消ノ訴ハ之ヲ併合スル事ヲ得

他ノ訴ヲ右ノ訴ト併合スル事及ヒ他ノ種類ノ反訴ヲ提起スル事ハ

之ヲ許サス

第五百七十六條 婚姻ノ解離又ハ取消ノ訴ヲ却下セラレタル原告ハ前ノ争訟ニ於テハ又ハ訴ノ併合ニ因リテ主張スル事ヲ得ヘカリシ事實ヲ最早獨立ナル訴ノ理由トシテ主張スル事ヲ得ス被告ニ在テハ反訴ノ理由ト爲ス事ヲ得ヘカラサリシ事實ニ付テモ亦同シ

第五百七十七條 事實ニ付キ又ハ證書ノ眞否ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スヲ拒ミタル事ノ結果ニ關スル成規、原告被告カ證人及ヒ鑑定人ノ宣誓ノ拋棄ニ關スル成規并ニ裁判上自認ノ効力及ヒ宣誓ノ免除ニ關スル成規ハ之ヲ適用セス

宣誓ノ要求及ヒ相手方チシテ證據ヲ提出セシムルノ申立ハ婚姻ノ解離、取消又ハ無効ノ理由タル事實ニ關スル時ニ限り之ヲ許サス

第五百七十八條 被告カ訴アリタルニ因リテ口頭辯論ノ爲メ定メラレタル期日ニ出頭セサル時ハ原告ノ申立ニ因リテ定メラル可キ新

期日ニ於テ始メテ辯論ヲ爲ス事ヲ得

被告ノ不在ニ於テ定メラレタル各期日ニハ其被告ヲ呼出ス可シ

右ノ成規ハ被告カ公示送達ニ因リテ呼出サレタル 出頭セサル時ハ之ヲ適用セス

副席判決ハ被告カ裁判上ノ宣誓ヲ爲ス爲メ定メラレタル期日ニ出頭セサル場合ニ限り被告ニ對シテ之ヲ發スル事ヲ得

此條ノ成規ハ反訴ニ之ヲ適用ス

第五百七十九條 裁判所ハ原告又ハ被告自身ノ出頭ヲ命シテ其原告若クハ被告相手方又ハ檢事ノ主張シタル事實ニ付キ原告若クハ被告ヲ審訊スル事ヲ得

審訊セラる可キ原告若クハ被告カ受訴裁判所ニ出頭スル事ヲ妨ケラレ又ハ原告若クハ被告カ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ル時ハ受命判事若クハ受託判事ニ由リ審訊ヲ爲ス事ヲ得

出願セサル原告又ハ被告ニ對シテハ審訊期日ニ出願セサル證人ニ對スル如ク處分ス可シ但拘留ヲ曾渡ス事ヲ得ス

第五百八十條 裁判所ハ原告被告ノ和解力調フ可キ見込アル時ハ婚姻ノ解離又ハ夫婦タル形狀回復ノ訴ニ關スル手續ノ中止ヲ職權ヲ以テ命スル事ヲ得

此規定ニ基キ其中止ハ訴訟中ニ於テハ一回ニ限り長ク共一個年間之ヲ命スル事ヲ得

解離カ齎通ニ因リテ申立テラレタル時ハ中止ヲ爲ス事ヲ得ス

第五百八十一條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ原告被告ノ提出セサル事實ヲ斟酌シ且職權ヲ以テ探證ヲ命スル事ヲ得但裁判ヲ爲スノ前ニハ原告被告ヲ審訊ス可シ

第五百八十二條 婚姻ノ解離、取消又ハ無効ヲ曾渡スノ判決書ハ職權ヲ以テ原告被告ニ之ヲ送達ス可シ

第五百八十三條 第二百五十二條ノ成規ハ控訴審ニ之ヲ適用セス

第五百八十四條 假處分ニ關シ殊ニ配偶者ノ一方カ假解離ノ許可及ヒ養料ノ供給ヲ申立タル場合ニ於テハ第八百十五條乃至第八百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第五百八十五條 無効ノ訴ニ付テハ下ノ數條ニ掲ケタル特別ノ成規ヲ適用ス

第五百八十六條 訴ハ檢事局ヨリモ亦之ヲ起ス事ヲ得配偶者ノ一方・又ハ第三者カ訴ヲ起ス事ヲ得ル權利ノ限度ハ民法ノ成規ニ從ヒテ之ヲ定ム

檢事又ハ第三者ノ起シタル訴ハ配偶者雙方ニ對シテ之ヲ爲シ又配偶者一方ノ起シタル訴ハ他ノ一方ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

第五百八十七條 無効ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合スル事ヲ得ス

反訴ハ無効ノ訴タル時ニ限り之ヲ爲ス事ヲ許ス

第五百八十八條 配偶者雙方カ生存スル間ハ職權ヲ以テモ主張スル事ヲ得ヘキ理由ニ因リテ婚姻ヲ無効ト爲ス事ハ無効ノ訴ニ基キテノミ之ヲ言渡ス事ヲ得

第五百八十九條 檢事ハ訴ヲ起サ、ル時ト雖モ争訟ヲ進行シ殊ニ獨立シテ申立ヲ爲シ及ヒ上訴ヲ起ス事ヲ得

第五百九十條 檢事カ上訴ヲ起シタル場合ニ於テハ上訴手續ニ於テ一私人ヲ相手方ト看做シ又一私人カ上訴ヲ起シタル場合ニ在テハ上訴手續ニ於テ其他ノ一私人ト檢事カ訴訟人タル時ハ檢事トヲ相手方ト看做ス

第五百九十一條 檢事カ原告又ハ被告ト爲リテ敗訴シタル場合ニ於テハ國庫ハ勝訴ト爲リタル相手方ニ生セシメタル費用ヲ第一編第二章第五節ノ規定ニ依リテ賠償ス可キ事ヲ言渡サル可シ

第五百九十二條 此章ノ意旨ニ於ケル婚姻解除ノ訴トハ婚姻ヲ解ク

ノ訴又ハ一時廢食ヲ別異ニスルノ訴ナリト解ス可ク取消ノ訴トハ職權ヲ以テ主張スル事ヲ得サル理由ニ因リ婚姻ニ對シテ異議ヲ申立ツルノ訴ナリト解ス可ク又無効ノ訴トハ職權ヲ以テモ主張スル事ヲ得ヘキ理由ニ因リ婚姻ニ對シテ異議ヲ申立ツルノ訴ナリト解ス可シ

第二章 禁治產事件ノ訴訟手續

第五百九十三條 精神病者一風癩白痴等一タルノ宣言ハ區裁判所ノ決定ヲ以テノミ之ヲ爲ス事ヲ得

第五百九十四條 治產ヲ禁セラル可キ者カ普通裁判官ヲ有スル地ノ區裁判所ハ其專屬管轄ヲ有ス

外國ニ於テノミ住所ヲ有スル乙人ニ對シテハ其獨乙人カ獨乙國ニ最後ノ住所ヲ有シタル地ノ區裁判所ニ申立ヲ爲ス事ヲ得

第五百九十五條 右申立ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ配偶者、血屬又ハ後見人之ヲ爲ス事ヲ得婦ニ對シテハ夫ニ限り又父權若クハ後見ノ下ニ立ツ者ニ對シテハ其父若クハ後見人ニ限り此申立ヲ爲ス事ヲ得其他ノ者ヨリ右ノ申立ヲ爲ス事ヲ得ヘシトスル民法上ノ規定ハ變更ヲ受ケス

總テノ場合ニ於テハ檢事モ亦其所屬地方裁判所ニ右ノ申立ヲ爲スノ權利アリ

第五百九十六條 申立ハ書面ヲ裁判所ニ差出シ又ハ裁判所書記ノ調書ニ口述シテ之ヲ爲ス事ヲ得其申立ニハ申立ノ理由タル事實ノ明示及ヒ舉證方法ノ表示ヲ包含ス可シ

第五百九十七條 裁判所ハ申立ニ明示シタル事實及ヒ舉證方法ヲ利用シ職權ヲ以テ精神ノ景況ヲ定ムル爲メ必要ナル探知ヲ爲シ且適當トスル舉證方法ヲ採ル可シ

裁判所ハ訴訟手續ヲ開始スルノ前診斷書ノ提出ヲ命スル事ヲ得

檢事ハ總テノ場合ニ於テ申立ヲ爲シテ訴訟手續ヲ進行スル事ヲ得
證人及ヒ鑑定人ノ審訊及ヒ宣誓ニ付テハ第二編第一章第七節及ヒ第八節ノ規定ヲ適用ス但第三百五十五條ノ場合ニ於テ拘留ヲ命スル事ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

第五百九十八條 治産ヲ禁セラル可キ者ハ一名又ハ數名ノ鑑定人ノ立會ヲ以テ之ヲ審訊ス可シ
其審訊ハ受託判事モ亦之ヲ爲ス事ヲ得

其審訊力裁判所ノ意見ニ從ヒテ之ヲ實施シ難ク又ハ裁判ノ爲メ要用ナラス又ハ治産ヲ禁セラル可キ者ノ健康ニ害アル時ハ之ヲ爲サ
ル事ヲ得

第五百九十九條 禁治産ハ裁判所カ強メ治産ヲ禁セラル可キ者ノ精神ノ景況ニ付キ一名又ハ數名ノ鑑定人ヲ審訊シタル後ニ非サレハ

之ヲ買渡ス事ヲ得ス

第六百條 裁判所カ治産ヲ禁セラル可キ者ノ身體又ハ財産ノ爲ノ看
護ヲ命スル事ヲ必要ト認メタル時ハ直チニ此命ヲ發スル爲メ後見
官ニ通知ヲ爲ス可シ

第六百一條 訴訟手續ノ費用ハ禁治産カ買渡サレタルトキハ被禁治
産者之ヲ負擔シ然ラサル場合ニ於テハ國庫之ヲ負擔ス可シ

裁判所ノ意見ニ從ヒテ第五百九十五條第一項ニ掲ケタル申立人カ
申立ヲ爲スニ付キ過烈アリト見込ムトキハ其費用ノ全部又ハ一分
ヲ右申立人ニ負擔セシムル事ヲ得

第六百二條 禁治産ニ付キ發ス可キ決定書ハ申立人及ヒ檢事ニ職權
ヲ以テ之ヲ送達ス可シ

第六百三條 禁治産ヲ買渡ス決定ハ職權ヲ以テ後見官ニ之ヲ通知
シ又法律上ノ後見人アルトキハ其法律上ノ後見人ニモ之ヲ通知ス

可シ

禁治産ハ其決定ヲ後見官ニ通知スルニ因リテ効力ヲ生ス

第六百四條 禁治産ヲ拒ムノ決定ニ對シ申立人及ヒ檢事ハ即時抗告
ヲ爲スノ權利アリ

抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ第五百九十七條ノ成規ヲ準用ス

第六百五條 禁治産ヲ買渡スノ決定ニ對シテハ一个月ノ期間内ニ訴
ヲ以テ不服ヲ申立ツル事ヲ得

訴ヲ起スノ權利ハ被禁治産者其後見人及ヒ第五百九十五條ニ掲ケ
タル各人ニ屬ス

其期間ハ被禁治産者ニ在テハ禁治産ヲ知リタル日ヲ以テ始マリ其
他ノ者ニ在テハ後見人ノ任役ヲ以テ始マリ又法律上ノ後見ノ場合
ニ於テハ其決定ヲ法律上ノ後見人ニ通知スルヲ以テ始マル

第六百六條 右ノ訴ニ付テハ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判

所其專屬管轄ヲ有ス

第六百七條 右ノ訴ハ檢事ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

檢事カ訴ヲ起ス時ハ其訴ハ被禁治產者ノ代人タル後見人ニ對シテ之ヲ爲ス可シ

第五百九十五條第一項ニ掲ケタル各人カ禁治產ヲ申立テタル時ハ訴ヲ通知シテ其各人ヲ口頭辯論ノ期日ニ呼出ス可シ其各人カ參加シタル場合ニ於テハ第五十九條ノ意旨ニ依リ主タル原告又ハ被告ノ共同爭訟人ト看做サル

第六百八條 禁治產ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ニハ他ノ訴ヲ併合スル事ヲ得ス

反訴ハ之ヲ爲ス事ヲ許サス

第六百九條 被禁治產者カ訴ヲ起サント欲スルトキハ其申立ニ因リ受訴裁判所ノ裁判長ハ代人トシテ辯護士ヲ之ニ添附ス可シ

第六百十條 原告被告ハ口頭辯論ニ際シ區裁判所ニ於テ爲シタル事件審問ノ結果ヲ完全ニ演述ス可シ但不服ノ申立ヲ受ケタル決定ノ正否ヲ調査スル爲ノ必要ナルモノニ限ル

演述ノ不正又ハ不完全ナル場合ニ於テハ裁判長ハ之ヲ更正シ又ハ完備セシメ又必要トスルトキハ此力爲メ再ヒ辯論ヲ開始ス可シ

第六百十一條 第五百七十七條及ヒ第五百七十八條ノ成規ハ之ヲ準用ス

原告又ハ被告ノ求メニ因ル宣誓ハ之ヲ許サス

第六百十二條 第五百九十八條及ヒ第五百九十九條ノ規定ハ不服申立ノ訴ニ關スル訴訟手續ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ區裁判所ニ於テ爲シタル鑑定ヲ充分ナリト認ムル時ハ鑑定人ノ審訊ヲ爲サ、ル事ヲ得

第六百十三條 不服申立ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治產ヲ管

渡シタル決定ヲ廢止ス可シ其廢止ハ判決ノ確定ト爲リタルトキチ
以テ始メテ効力ヲ生ス然レ共申立ニ因リテ被禁治產者ノ身體又ハ
財產ヲ保護スル爲メ第八百十五條乃至第八百二十二條ニ依リテ假
處分ヲ爲ス事ヲ得

其廢止ハ禁治產ヲ言渡シタル決定ニ基キ被禁治產者ノ従前ノ行爲
ノ効力ヲ禁治產言渡ノ決定ニ依リテ爭フ事ヲ得サルノ結果ヲ生ス
又其廢止ハ任設セラレタル後見人又ハ法律上ノ後見人ノ従前ノ行
爲ノ効力ニ影響ヲ及ホサス

第六百十四條 檢事カ敗訴ト爲リタルトキハ國庫ハ勝訴ト爲リタル
相手方ニ生セシメタル費用ヲ第一編第二章第五節ノ規定ニ從ヒテ
辨償スル事ヲ言渡サル可シ

檢事カ訴ヲ起シタルトキハ國庫ハ總テノ場合ニ於テ爭訟ノ費用ヲ
負擔ス可シ

民訴草ノ二二七

第六百十五條 受訴裁判所ハ禁治產事件ニ付キ發シタル各終局判決
ヲ後見官總及ヒ區裁判所ニ通知ス可シ

第六百十六條 禁治產ノ解止ハ被禁治產者、其後見人又ハ檢事ノ申
立ニ因リ區裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百十七條 禁治產ノ解止ニ付テハ被禁治產者カ普通裁判權ヲ有
スル地ノ區裁判所其專屬管轄ヲ有ス

被禁治產者カ獨乙人ニシテ且外國ニ於テノミ其住所ヲ有スルトキ
ハ申立ハ獨乙國ニ於テ最後ノ住所ヲ有シタル地ノ區裁判所ニ之ヲ
爲ス事ヲ得但獨乙裁判所ニ於テ禁治產ヲ言渡シタルトキニ限ル

第五百九十六條乃至第五百九十九條ノ規定ハ之ヲ準用ス

第六百十八條 訴訟手續ノ費用ハ被禁治產者之ヲ負擔シ又檢事カ其
手續ヲ申立テタルモ無効ナリシトキハ國庫之ヲ負擔ス可シ

第六百十九條 禁治產ノ解止ニ付キ發セラル可キ決定書ハ職權ヲ以

テ申立人ニ之ヲ送達シ又解止ノ場合ニ於テハ職權ヲ以テ被禁治產者及ヒ檢事ニ之ヲ送達ス可シ

禁治產ヲ解止スル決定ニ對シテハ檢事ハ即時抗告ヲ爲スノ權利アリ

確定ト爲リタル解止ハ後見官職ニ之ヲ通知ス可シ

第六百二十條 區裁判所カ解止ノ申立ヲ拒ミタルトキハ訴ヲ以テ其解止ヲ申立ツル事ヲ得

被禁治產者ニ付セラレタル後見人及ヒ檢事ハ訴ヲ起スノ權利アリ
後見人カ訴ヲ起ス事ヲ欲セサルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ被禁治產者ニ代人トシテ辯護士ヲ添附スル事ヲ得

其訴訟手續ニハ第六百六條乃至第六百十五條ノ成規ヲ準用ス

第六百二十一條 浪費者タルノ宣言ハ區裁判所ノ決定ヲ以テノミ之ヲ爲ス事ヲ得

其決定ハ申立ニ因リテノミ之ヲ發ス

其訴訟手續ニハ第五百九十四條、第五百九十五條第一項、第五百九十六條、第五百九十七條第一項、第四百項及ヒ第六百四條ノ成規ヲ準用ス

檢事局ハ此訴訟ニ參與スル事ヲ得ス

第六百二十二條 區裁判所ニ於ケル訴訟手續ノ費用ハ禁治產ヲ爲シタルトキハ被禁治產者之ヲ負擔シ然ラサル場合ニ於テハ申立人之ヲ負擔ス可シ

第六百二十三條 禁治產ニ付キ發スル決定書ハ職權ヲ以テ申立人及ヒ治產ヲ禁セラル可キ者ニ送達ス可シ

禁治產ヲ言渡スノ決定ハ被禁治產者ニ送達スルヲ以テ効力ヲ生ス其決定ハ職權ヲ以テ後見官職ニ之ヲ通知ス可シ

第六百二十四條 被禁治產者ハ禁治產ヲ言渡スノ決定ニ對シ一個月

ノ期間内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツル事ヲ得

此期間ハ決定書ヲ被禁治産者ニ送達スルヲ以テ始マル

其訴ハ禁治産ヲ申立テタル者ニ對シテ之ヲ爲シ若シ其申立人死亡

シ又ハ所在分明ナラス又ハ外國ニ在ルトキハ檢事ニ對シテ之ヲ爲

ス可シ

其訴訟手續ニハ第六百六條、第六百八條、第六百十條、第六百十

一條、第六百十三條乃至第六百十五條ノ成規ヲ準用ス

第六百二十五條 禁治産ノ解止ハ被禁治産者又ハ其後見人ノ申立ニ

因リ第六百十六條乃至第六百十九條ノ成規ヲ準用シテ之ヲ爲ス

禁治産ヲ解止スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツル事ヲ得ス

第六百二十六條 區裁判所カ解止ノ申立ヲ拒ミタルトキハ其解止ハ

訴ヲ以テ之ヲ申立ツル事ヲ得

被禁治産者ノ後見人ハ此訴ヲ起スノ權利アリ若シ後見人其訴ヲ起

ス事ヲ欲セサルトキハ受訴裁判所ノ裁判長ハ被禁治産者ニ代人ト
シテ辯護士ヲ添附スル事ヲ得

其訴ハ禁治産ヲ申立テタル者ニ對シテ之ヲ爲シ若シ其申立人死亡

シ又ハ所在分明ナラス又ハ外國ニ在ルトキハ檢事ニ對シテ之ヲ爲

ス可シ

其訴訟手續ニハ第六百六條、第六百八條、第六百十條、第六百十

一條、第六百十四條及ヒ第六百十五條ノ成規ヲ準用ス

第六百二十七條 區裁判所ハ滯費ノ爲メノ禁治産及ヒ其禁治産ノ解

止ヲ公告ス可シ

第十編 仲裁裁判手續

第八百五十一條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争訟ノ裁判ヲ爲サシムルノ合意ハ原告被告力争訟物ニ付キ和解契約ヲ取結フノ權利アル場合ニ限り法律上ノ効力ヲ有ス

第八百五十二條 將來ノ争訟ニ關スル仲裁契約ハ定マリタル權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争訟ニ關セサルトキハ法律上ノ効力ヲ有セス

第八百五十三條 口頭ヲ以テ取結ヒタル仲裁契約カ民法ノ規定ニ從ヒテ有効ナルトキハ原告又ハ被告ハ其契約ニ付キ證書ノ作成ヲ求ムル事ヲ得

第八百五十四條 若シ仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ノ無キ時ハ原告被告ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第八百五十五條 原告被告ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スル

時ハ先キニ手續ヲ爲セル一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル
仲裁人ヲ指示シ且一週日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ事ヲ催
告ス可シ

其期間ノ徒過シタル後ハ管轄裁判所ハ先キニ手續ヲ爲セル一方ノ
申立ニ因リテ仲裁人ヲ選定ス

第八百五十六條 原告又ハ被告ハ其相手方カ仲裁人選定ノ通知ヲ受
ケタル上ハ相手方ニ對シテ其選定ニ拘束セラル

第八百五十七條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人ノ死亡
シ又ハ其他ノ理由ニ因リテ欠缺シ又ハ仲裁人ノ職務ノ引受若クハ
履行ヲ拒ミタル時ハ其仲裁人ヲ選定シタル原告又ハ被告ハ相手方
ノ催告ニ因リテ一週日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ其期間
ヲ徒過シタル後ハ先キニ手續ヲ爲セル一方ノ申立ニ因リテ管轄裁
判所ヨリ仲裁人ヲ選定ス可シ

第八百五十八條 仲裁人ハ判事ヲ忌避スルノ權利ヲ生セシムルト同

一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ之ヲ忌避スル事ヲ得

其他仲裁契約ヲ以テ選定セラレタルニ非サル仲裁人カ其責務ノ履
行ヲ不當ニ遲延スル時ハ亦之ヲ忌避スル事ヲ得

婚、未成年者、聾者、啞者及ヒ公權ヲ剝奪セラレタル者ハ之ヲ忌
避スル事ヲ得

第八百五十九條 仲裁契約ハ原告被告ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲ノ

選定ヲ爲サ、リシ時ハ其效力ヲ失フ

第一 若シ契約ニ於テ定マリタル人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人一
名ノ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リテ欠缺シ又ハ仲裁人ノ職務ノ
引受ヲ拒ミ又ハ自己ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行
ヲ不當ニ遲延シタル時

第二 若シ仲裁人カ相互間ニ發言同數ナル事ヲ原告被告ニ通知シ

タル時

第八百六十條 仲裁人ハ仲裁裁判ヲ發スルノ前原告被告ヲ審訊シ日必要トスル限りハ争訟ノ原由タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁ノ手續ニ付キ原告被告ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人其意見ヲ以テ之ヲ定ム

第八百六十一條 仲裁判事ハ自己ノ面前ニ任意ニ出頭セル證人及ヒ鑑定人ヲ審訊スル事ヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲ宣誓セシメ及ヒ原告被告ノ求メタル宣誓ヲ爲サシムルノ權利ナシ

第八百六十二條 仲裁人ノ必要ト認メタル裁判上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲ス事ヲ得サルモノハ原告又ハ被告ノ申立ニ因リテ管轄裁判所之ヲ爲ス但其申立カ許サル可キモノト認メラレタル時ニ限ル證人又ハ鑑定人ノ審訊又ハ宣誓ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フル

事又ハ鑑定ヲ爲ス事ヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ト爲レル裁判ヲモ發スルノ權利アリ

第八百六十三條 仲裁人ハ仲裁手續ノ爲ス可カラサル事カ主張セラル、時、殊ニ法律上有効ナル仲裁契約ノ成立セサル事、仲裁契約カ裁判ス可キ争訟ニ關係セサル事又ハ仲裁人カ仲裁人ノ職務ヲ履行スル權利ナキ事ノ主張セラル、時ト雖モ仲裁手續ヲ繼續シ且仲裁裁判ヲ發スル事ヲ得

第八百六十四條 數名ノ仲裁人カ仲裁裁判ヲ發ス可キ時ハ仲裁契約ニ別段ノ定メ無キ場合ニ限り過半數ヲ以テ裁判スル事ヲ得

第八百六十五條 仲裁裁判書ニハ其作成ノ日ヲ明示シテ仲裁人之ニ署名シ原告被告ニハ仲裁人ノ署名シタル正本ヲ送達シ其裁判書ハ送達ノ證據ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記局ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百六十六條 仲裁裁判ハ原告被告間ニ於テ裁判所ノ確定判決タ

ルノ効力ヲ有ス

第八百六十七條 仲裁裁判ノ廢止ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツル事ヲ得

第一 仲裁手續ヲ爲ス可カラサリシ時

第二 仲裁裁判カ禁セラレタル所爲ヲ爲ス事ヲ原告又ハ被告ニ對シテ

渡シタル時

第三 原告又ハ被告カ仲裁手續ニ於テ法律ノ威嚇ニ從ヒテ代理セラレサリシ時但其原告又ハ被告カ訴訟ヲ爲ス事ヲ明示又ハ默示

ニテ承諾セサリシ時ニ限ル

第四 仲裁手續ニ於テ原告又ハ被告ノ法律上ノ審訊ヲ爲サ、リシ時

第五 仲裁裁判ニ理由ヲ付セサリシ時

第六 第五百四十三條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ原狀回復ノ

訴ヲ許スノ條件アル時

仲裁裁判ノ廢止ハ原告被告カ別段ノ合意ヲ爲シタル時ハ本條ノ第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リテ之ヲ爲ス事ヲ得ス

第八百六十八條 仲裁裁判ニ因リテ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キ事ヲ言渡サレタル時ニ限り之ヲ爲ス事ヲ得

若シ仲裁裁判ノ廢止ヲ申立ツル事ヲ得ヘキ理由ノ存スル時ハ執行判決ヲ發スル事ヲ得ス

第八百六十九條 執行判決ヲ發シタル後ハ仲裁裁判ノ廢止ハ第八百六十七條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツル事ヲ得

但原告又ハ被告カ自己ノ過愆ニ非スシテ前手續ニ於テ廢止ノ理由ヲ主張スル能ハサリシ事ヲ證明シタル時ニ限ル

第八百七十條 仲裁裁判ヲ廢止スルノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一個月ノ不可變期間内ニ之ヲ起ス可シ

其期間ハ原告又ハ被告カ廢止ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レ共執行判決ノ確定ト爲ル前ニハ始マラス但判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ十年ノ滿了シタル後ハ此訴ヲ起ス事ヲ許サス
仲裁裁判ヲ廢止スル時ハ執行判決ノ廢棄ヲモ言渡ス可シ

第八百七十一條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スル事、仲裁契約ノ消滅スル事、仲裁手續ヲ爲ス可カラサル事、仲裁裁判ヲ廢止スル事又ハ執行判決ヲ發スル事ヲ目的トスルノ訴ニ付テハ仲裁契約書ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキ時ハ請求ヲ裁判上ニテ主張セル管轄ヲ有シタル可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス
前項ニ依リテ管轄ヲ有スル裁判所數箇アル時ハ原告若クハ被告又ハ仲裁裁判所（第八百六十五條）ヨリ最初ニ關係セシノラレタル裁判所其管轄ヲ有ス

第八百七十二條 遺言上ノ處分又ハ其他合意ニ基カサル處分ニ因リ法律ノ許セル方法ヲ以テ設ケタル仲裁裁判所ニハ本編ノ規定ヲ準用ス

昭和十六年十二月二十日寫了司法省法律調査會發書

日本學術振興會

日本學術振興會

